

**2008 年度 大阪大学
言語社会学会・言語文化学会
合同研究発表会
(第 34 回大阪大学言語文化学会大会)
大会資料集**

**日時:2008 年 10 月 30 日(木) 15:00 より
会場:大阪大学大学院言語文化研究科棟
1 階大会議室
2 階大会議室
3 階講義室**

主催:大阪大学言語文化学会

目 次

研究発表 15:00-17:40

第 1 室：言語文化研究科棟 1 階大会議室

1. 『アンナとシャム王』『王様と私』『アンナと王様』における近代化と女性化、人種・ジェンダーの統合 松本 ユキ (1)
2. 『アルヨことば』の発展と特徴、及び中国語訳に対する考察 リュウ ロ (5)
3. 逆接接続助詞「ノニ」、「クセニ」に関する一考察 王 天保 (9)
—「ニ」から分析する可能性をさぐる—
4. 日本語と韓国語の複合動詞の対照研究 全 敏杞 (13)
—「変更」、「交換」、「修正」を表す複合動詞の意味と統語素性—
5. 中国語の語気助詞“呢(NE)”のカテゴリー化 周 艷紅 (17)

第 2 室：言語文化研究科棟 2 階大会議室

1. FLASHを利用したマルチメディア教材製作の実践報告 丁紀祥 (21)
—日本語単語ゲーム教材を例に—
2. 多言語・多文化共生社会における言語内翻訳の有用性と処理方略 山本 一晴 (25)
3. 1938年 東京モスク(東京回教寺院)開堂式から見えるもの 依岡宏子 (29)
4. 雑誌『民俗台湾』における台湾知識人の「共栄圏文化」 張 修慎 (33)
5. 「鳳子」から見る沈從文の世界観について 滝本 理博 (37)

第 3 室：言語文化研究科棟 3 階講義室

1. 日本語引用テキスト再考—2つの間接引用テキスト— 上田 恭寿 (41)
2. 堀田善衛が辿ったフォスターの『インドへの道』 アヌシュリー (45)
3. ヘミングウェイ文学における暴力とライティング 久保 公人 (49)
—「ホーム・ライク」な場所をめぐる議論を中心に—
4. 都市の「細部」へ—Vladimir Nabokovの“A Guide to Berlin”— 後藤 篤 (53)

『アンナとシャム王』『王様と私』『アンナと王様』における近代化と女性化、
人種・ジェンダーの統合

松本 ユキ

大阪大学言語文化研究科博士後期課程一年

発表内容

1. はじめに
2. アジアの死にみられる近代化と女性化
 - 2.1 王の死と新王の誕生
 - 2.2 タプティムの死に見る伝統と近代化
3. 「センチメンタルな近代化」による統合
 - 3.1 アメリカの外交政策と文化表象における統合と封じ込め
 - 3.2 Getting to Know “You”における友情と人種の統合
 - 3.3 Shall “We” Dance? におけるロマンティック・ラブとジェンダーの統合
4. おわりに

1. はじめに

時代背景

1862年 チャクリ王朝の首都バンコク

イギリス領のミャンマー（ビルマ）と仏領インドシナの緩衝地帯→植民地化をまぬがれる
モンクット王（ラーマ4世）の思想を引継ぎ、チュラロンコーン大王（ラーマ5世）は近代化政策に
着手し独立を維持する

ストーリー

1862年に息子のルイと共にバンコクを訪れたイギリス女性アンナは英語教師としてモンクット王の子
供たちに英語や西洋の科学を教える

テキストの変遷

原作

Anna Leonowens *The English Governess at the Siamese Court* (1870)

The Romance of the Harem (1873)

Margaret Landon *Anna and the King of Siam* (1944)

映像化

- ① *Anna and the King of Siam* (1946)...白黒版、Irene Dunne、Rex Harrison 出演
- ② *The King and I* (1956)...Rodgers&Hammerstein 版、Deborah Kerr、Yul Brynner 出演
- ③ *The King and I* (1999)...ミュージカルをベースにしたアニメーション
- ④ *Anna and the King* (1999)...Jodie Foster、Chow Yun-Fat 出演

ミュージカル

1951年3月29日 (St. James 劇場) *The King and I*, NY 公演開演

作曲: Richard Rodgers 作詞、脚本: Oscar Hammerstein II

出演: Gertrude Lawrence、Yul Brynner 他

曲名: "I Whistle a Happy Tune" "March of the Siamese Children" "A Puzzlement" "Getting to Know You" "Shall We Dance?" 他

Cf) *South Pacific*(1949) *Flower Drum Song*(1958)

2. アジアの死にみられる近代化と女性化

2.1 王の死と新王の誕生

- ・ 西洋=教師・親(母親) 東洋=生徒・子供(息子)

Siam is reduced to the status of a child in need of western schooling."(McConachie 391)

1946 年版

Anna: "He was like a little boy sometimes. You remember about forks and knives. And he was sick that night, he cared so much. They didn't know he cared like that. Nobody understand. Not really."

Kralahome: "You shall stay and help young prince."

- ・ 王の死=伝統の死 新王の誕生=近代化の勝利
- ・ 近代化と「リスペクタビリティ」

It represents colonialism as a feminized project of modernizing backward peoples by inculcating in them a set of habits and a consciousness associated with middle-class domesticity. (Klein 200)

2.2 タプティムの死に見る伝統と近代化

- ・ フェミニストによる伝統への抵抗

When a figure such as Tuptim is constructed as a romantic, tragic victim, the narratives of non-Western women in resistance against local and global forms of oppression are displaced. (Kaplan 48)

- ・ 伝統化と近代化の間で

Between patriarchy and imperialism, subject-constitution and object-formation, the figure of the woman disappears, not into a pristine nothingness, but into a violent shuttling which is the displaced figuration of the "third-world woman" caught between tradition and modernization. (Spivak 306)

- ・ 西洋人女性の位置づけ

The intersection of colonial and gender discourses involves a shifting, contradictory subject positioning, whereby Western woman can simultaneously constitute "center" and "periphery," identity and alterity. A Western woman, in these narratives, exists in a subordination to Western man and in a relation of domination toward "non-Western" men and women. (Shohat 680)

3. 「センチメンタルな近代化」による統合

3.1 アメリカの外交政策と文化表象における統合と封じ込め

- ・ 冷戦期のアメリカと「封じ込めのメタファー」

In the 1950s, container metaphors shaped much of white, middle-class America's perceptions of the world. The doctrine of containment, of course, articulated American relations with Communist governments and animated U.S. military action in Korea and elsewhere. Policymakers, however, did not consider the psycho-social consequences of the container metaphor on American citizens. To speak of containment is to call forth an image based on our kinesthetic experience which entails an inside, an outside, and a boundary line between them. (McConachie 387)

- ・ 自由世界同盟への加入

Modernization theory thus intersected neatly with the larger Cold War goals of integration and containment: by helping "backward" nations become "modern," the U.S. hoped to alleviate the conditions that made communism an attractive option and thus secure these nations' participation in the "free world" alliance. (Klein 198)

- ・ 「センチメンタルな近代化」 (Klein)

3.2 Getting to Know "You"における友情と人種の統合

- ・ 近代化と「女性化」

Feelings are what her cultural education produces: feelings of friendship for her as a figure of the West, feelings of romantic love that undercut the King's authority. This collaboration of culture and sentiment, linked as it is with the overall feminization of the idea of progress, serves to legitimate the principles of modernization by stripping them of any imperialist overtones of force, coercion, and exploitation. (Klein 210)

- ・ 知的結びつき (Intellectual Bond) と情緒的結びつき (Emotional Bond)

3.3 Shall "We" Dance? におけるロマンティック・ラブとジェンダーの統合

- ・ ミュージカルにおけるジェンダーの統合
- ・ ダンスを通じた王様自身の近代化

4. おわりに

以上の考察から読み取れるように、『アンナとシャム王』『王様と私』『アンナと王様』における近代化と女性化、人種・ジェンダーの統合は人種やジェンダーを対等な関係性をつくりあげようとする理想に反し、「アメリカの道徳的優位性に基づいた普遍的な平等性」(Lye) によるものであったと言えるだろう。これらの映画においては、真の近代化は科学的な知識によって得られるものではなく、人種やジェンダーを超えた「センチメンタルな近代化」(Klein) によって達成される。それゆえに、西洋が東洋を表象する際には、その道徳的優位性は絶えず不変であり続けるのである。

Works Cited

- Feuer, Jane. "The Self-Reflexive Musical and the Myth of Entertainment." *Film Genre Reader III*. Ed. Barry Keith Grant. Austin: University of Texas Press, 1986: 457-470.
- Kaplan, Caren. "'Getting to Know You': Travel, Gender, and the Politics of Representation in *Anna and the King of Siam* and *the King and I*." *Late Imperial Culture*. Eds. Roman De La Campa, E. Ann Kaplan, and Michael Sprinker. London: Verso, 1995: 33-52.
- Klein, Christina. *Cold War Orientalism: Asia in the Middlebrow Imagination, 1945-1961*. Berkeley: California UP, 2003.
- Landon, Margaret. *Anna and the King of Siam*. New York: The John Day Co, 1944.
- Leonowens, Anna Harriette. *The English Governess at the Siamese Court*. 1870. London: Trübner, 1993.
- _____. *The Romance of the Harem*. 1873. Charlottesville: University Press of Virginia, 1991.
- Lye, Colleen. *America's Asia: Racial Form and American Literature, 1893-1945*. Princeton: Princeton UP, 2005.
- McConachie, Bruce A. "The 'Oriental' Musical of Rodgers and Hammerstein and the U.S. War in Southeast Asia." *Theatre Journal* 46-3(October 1994): 385-398.
- Mossé, George L. *Nationalism and Sexuality: Middle-class Morality and Sexual Norms in Modern Europe*. Madison: University of Wisconsin Press, 1985.
- Said, Edward W. *Orientalism*. New York: Vintage Books, 1994.
- Stoler, Ann Laura. "Carnal Knowledge and Imperial Power: Gender, Race, and Morality in Colonial Asia." *The Gender Sexuality Reader: Culture, History, Political Economy*. Eds. Roger N. Lancaster and Micaela di Leonardo. New York: Routledge, 1997: 13-36.
- Shohat, Ella. "Gender and Culture of Empire: Toward a Feminist Ethnography of the Cinema." *Film and Theory: An Anthology*. Eds. Robert Stam and Toby Miller. New York: Blackwell, 2000: 669-696.
- Spivak, Gayatri Chakravorty. "Can the Subaltern Speak?" in *Marxism and the Interpretation of Culture*. Eds. Cary Nelson and Lawrence Grossberg. Urbana: University of Illinois Press, 1988: 271-313.
- Yoshihara, Mari. *Embracing the East: White Woman and American Orientalism*. New York: Oxford UP, 2003.

「アルヨことば」の発展と特徴、及び中国語訳に対する考察

大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程1年

劉璐(LIU LU)¹

1. はじめに

「アルヨことば」とは、金水(2003)は提出した役割語²の一種類であり、主にポピュラーカルチャー作品の中で中国人を表現する際に用いられる独特な話し方のことである。先行研究では、「アルヨことば」はピジン日本語の一種と位置づけられ、その原型また役割語として用いられるようになった歴史的・社会的な背景に焦点を当てて考察を行った。金水(2007)は「アルヨことば」の原型は19世紀後半の横浜居留地で使われていた日本語をベースとするピジン語³であると唱えている。そして、現在に多く見られるアル型ピジン日本語の使用は、昭和10年代ぐらいまで遡ることができるという結論が出されている。

2. 本研究の目的と着目点

昭和10年代以降、特に戦後の日本におけるサブカルチャーの更なる発展によって、「アルヨことば」の使用状況も変化し、新たな特徴、例えば音声的特徴が現れてきたと考えられる。また、日本サブカルチャーの世界的進出によって、翻訳作品を通じて「アルヨことば」のような役割語はどう訳されているか、そして役割語に投影した日本人が持っているステレオタイプは外国人に認識されているかどうかなどの点にも着目したいと思う。本研究の目的は主に以下の3点となる。

- 1) 「アルヨことば」の新たな特徴と変化、及び結びつく人物像の変化
- 2) 「アルヨことば」の具体的な生起環境
- 3) 「アルヨことば」の中国語訳から見る役割語の翻訳現状、及び役割語の中国における受容。

3. 「アルヨことば」の新たな特徴と変化

・金水(2003)で挙げられた特徴は主に以下のものである。

- 1) 文末述語に直接「ある」または「あるよ」(断定)、「あるか」(質問)が付く。まれに「あるな」などもある。ヴァリエーションとして、「あります」が付くこともある。
- 2) 文末述語動詞に「よろしい」を付けて、命令・依頼を表す。
- 3) 助詞がしばしば省略される。

以上の特徴は主に20世紀80年代以前の創作作品に現れた「アルヨことば」の特徴であり、80年代から近年までの新しいポピュラーカルチャー作品を考察した結果、「アルヨことば」の特徴には新たな変化が観察された。

① ヴァリエーションの変化

「アリマス」の使用が完全に見られなくなった。感動詞「アイヤー」の使用が多い。「アル」、「アルヨ」、「アルネ」、「アルか」、「アルな」、「ネ」、「ヨ」、「ヨロシ」など、語尾に付くもののヴァリエーションが多い。特に、文末述語に「アル」を付けず、代わりに終助詞「ネ」と「ヨ」を使う例が多く現れてきた。また、「ネ」と「ヨ」以外の終助詞の使用が比較的少ない。

例：(1) 「パピー 次はいつ帰ってくるネ？」(『銀魂』第8巻p.9)

(2) 「待つネ！」(『銀魂』第4巻p.23)

② 音声的特徴(訛りのあるイントネーション)

特に語尾に「ネ」を用いる場合のイントネーションが標準語と明らかに異なる。

例：(3) どうすればいいネ？

(5) 遅いヨ！遅刻ネ！

(4) 中国の女、そんなに女々しくないネ。(6) いったい何しに来たネ？

¹ lulufeng@hotmail.co.jp

² 役割語とは特定の人物像と結びつく特徴のある言葉づかいである。

³ 「横浜ダイアレクト」、「Yokohamaese」、「横浜ことば」などと呼ばれている。しかし、横浜ダイアレクトの語尾に「アル」ではなく、「アリマス」を付け加えるのがほとんどであり、そこで、金水氏は当時に横浜ダイアレクトと似ているが、語尾に「アル」が用いられる「Nankinized-Nippon」というピジン日本語のほうが、「アルヨことば」の原型である可能性が高いと見られる。

③ 表記はカタカナに統一

例：(7)「こんどひっこちてきた 摘一家ある よろちくね」(『Dr.スランプ』⑤ p.173)

(8)「おかわりヨロシ？」(『銀魂』第1巻 p.111)

(9)「あると良いアルのにないとは残念アル！」(『クイズマジックアカデミーDS』)

④ 「を」、「が」などの助詞の省略が少なくなった。

例：(10)「ああ、わたし、いうあるよ、いうあるよ。あたし、ボールたしかに海へなげこんだ」(青空文庫テキスト海野十三「人造人間エフ氏」より)

(10)のように古い作品では外国人を表現する時、よく助詞を省略して片言風の日本語を喋らせる。しかし、現代の作品では、このような表現が少ない。つまり、外国人の登場人物を表現するために用いる方法は文末に特定の語尾を付け加えることがほとんどである。

4. 「アル」の生起環境

キャラ語尾：金水(2003)は、「特定のキャラクターに与えられた語尾」と定義している。

キャラ語尾の下位分類として：定延(2007)は、キャラコピュラ⁴とキャラ助詞⁵の二つに分けている。

そこで、「アル」はキャラコピュラに分類すべきか、キャラ助詞に分類すべきかを明らかにするために「アル」の生起環境を考察した。表(1)は定延(2007)p.37より引用したキャラコピュラとキャラ助詞の違いをまとめたものである。

表(1):キャラコピュラとキャラ助詞の違い

キャラ語尾の種類	倒置文での現れ	終助詞との位置関係	文中の文節末での現れ
キャラコピュラ	比較的現れやすい	終助詞よりも先	比較的現れやすい
キャラ助詞	比較的現れにくい	終助詞よりも後	比較的現れにくい

考察の結果：

① 文末述語の直後に現れる。

例：(11)「分かりましたある。ほんとう怖いある。」(『Dr. スランプ』アニメ第31話)

(12)「何か新しい儲け話があるかも知れないアル！」(『クイズマジックアカデミーDS』)

(13)「私は、定春いつも可愛がってるアルから、きっと大丈夫ネ」(『銀魂』第9巻 p.72)

② 基本的には終助詞の前に現れる。

例：(14)「おそろしい世の中にならばアルなあ……」(金水(2007)p.106より)

(15)「おー、そうアルか！ライラ、物知りアルな！」(『クイズマジックアカデミーDS』)

※近年の作品では、稀に終助詞よりも先に現れる文が見られるようになった。

例：(16)「気にするなアル。また生えるヨ」(『銀魂』第9巻 p.110)

③ 倒置文で使うことが許される。

例：(17)この掃除機はいいにおい出すアルヨ。

(17)いいにおい出すアルヨ、この掃除機は。

結論：「アル」は基本的キャラコピュラに分類すべきが、(16)のような終助詞の後に現れる文章が近年の作品でたまに見られる。これは一種の誤用として考えられるが、「アル」のキャラ助詞化にも繋がるのではないか。なぜなら、キャラコピュラより、キャラ助詞のほうは文法的なルールが少なく、覚えられやすいため、キャラ作りにはより使いやすいのではないだろうか。

例：(18)こんな小さな間違いを少しずつ訂正していけば、お互いの国の相互理解が深まると思うのでアルヨ。

[2008年10月22日 http://www.silvertears.jp/02_diary/200504a.htm]

⁴ 例えば、「拙者は侍でござる」の「でござる」のように、コピュラの特徴とある程度似ており、コピュラの変異体と考えられるものを指す。キャラコピュラの発話キャラクターのモデルが現実世界に存在する。

⁵ 例えば、「今日も寒いですにゃん」の「にゃん」のように、コピュラと似ていない。また「にゃん」で繰り出される発話キャラクターは、モデルが現実世界にはっきりした形で存在しない。

5. 「アルヨことば」話者イメージの変化

金水(2003)で挙げられた「アルヨことば」の話者の特徴をまとめると、以下のようになる。

- ・ひげを生やしている。中国帽、中国服で、弁髪、やや太っている中年男性
- ・計算高い、ケチで怪しげな雰囲気を持ち、気が小さい、臆病で、どこか間が抜けている

しかし、近年の作品を中心に中国系キャラクター男女を合わせて46人のそれぞれの特徴と言葉遣いについて考察した結果、以上の特徴に当てはまるキャラクターはほとんどなく、「アルヨことば」の話者イメージの変化が観察された。表(2)はその一部である。

表(2)

登場人物	外見特徴	性格特徴	言葉遣い	登場作品データ
1 摘 鶴燐(つん つるりん)	お団子頭、チャイナ服、小柄、17歳女性	普段はオチャメでやさしいが怒ると怖い	語尾に「アル」	『Dr.スランプ』鳥山明 1980～1984年
2 摘 詰角田野廷遊豪(つん つんつのだのていゆうこう)	チャイナ服、30代前半の女性	気が強く、鶴天を尻に敷いている	語尾に「アル」、女性語	同上
3 シャンプー	お団子頭、チャイナ服、小柄、10代後半の女性	明るくて積極的で、我が強く、攻撃的、負けず嫌いな	語尾に「ネ」、訛りがある	『らんま 1/2』高橋留美子 1987～1996年
4 コロン	チャイナ服、老人、小柄	気が強い、女傑	老人語	同上
5 チャイナ	お団子頭、チャイナ服、20代前半の女性	明るい、心優しい、少し気が強い面もある	語尾に「アル」、訛りがある	『Spirit of Wonder-チャイナさんの夢』鶴田謙二 1992
6 銀鈴(ぎん れい)	チャイナ服、19歳、大人らしい女性	正義感がある、優しい、能力が高い	女性語	『ジャイアントロボ THE ANIMATION -地球が静止する日』横山光輝 1992年～1998年
7 フェイ	お団子頭、チャイナ服、小柄、10代前半の女性	活発、おてんば	語尾に「ネ」と「ヨ」、訛りがある	『ゲートキーパーズ』佐藤順一 角川書店 GONZO 2000年
8 孫 Rui(ソン ルイ)	現代の服、20代前半の女性	明るい、強引	標準語	『のだめカンタービレ』二ノ宮知子 2001年～
9 神楽(かぐら)	お団子頭、チャイナ服、小柄、14歳の女性	明るい、行儀悪い、負けず嫌いな、攻撃的	語尾に「アル」、訛り、訛りがある	『銀魂』空知英秋 2003年～
10 王 留美(ワン・リュウミン)	お団子頭、チャイナ服、小柄、17歳の美少女セレブ	気品高い、自己中心的	お嬢様ことば	『機動戦士ガンダム00』矢立肇、富野由悠季 2007～2008年
11 ヤンヤン	お団子頭、チャイナ服、10代前半の女性	明るい、勉強苦手、ケチ	語尾に「アル」、訛り、訛りがある	『クイズマジックアカデミーDS』KONAMI 2008年
12 張々湖(ちゃんちゃんこ)	ドビウひげ、太くて短身、40歳前後の男性	食いしん坊、陽気、よくギャグを言う	語尾に「アル」	『サイボーグ009』石ノ森章太郎 1966年～2006年
13 ラーメンマン	弁髪、どじょう髭、長身でやや痩せる、20代男性	真面目で正義感ある、心優しい	標準語	『キン肉マン』ゆでたまご 1979～1987年
14 摘 突点(つん つくつん)	チャイナ服、15歳少年	マジメで温厚	語尾に「アル」	『Dr.スランプ』鳥山明 1980～1984年
15 摘 鶴天(つん つるてん)	チャイナ服と帽子、ツルつばげで鼻下にチョビヒゲ、眼鏡、中年男性	好色で臆病もの	語尾に「アル」	『Dr.スランプ』鳥山明 1980～1984年
16 張 五飛(チャン・ウーフェイ)	チャイナ服、弁髪つばい髪型、15歳少年	熱血、直情的	標準語、男性語	『新機軸機動ガンダム W』サンライズ 1995～1996年
17 黎 星刻(リー・シンクー)	チャイナ服、長髪、20代青年	冷静で、知的	標準語	『コードギアス 反逆のルルーシュ』サンライズ 2006年～

結論：近年の作品に登場する中国人キャラクターの中に、金水(2003)で挙げられた特徴を持つものがほとんど見当たらず、「アルヨことば」を使うもっとも典型的な人物像の外見的特徴とは「チャイナ服を身に付け、頭のお団子のような髪形をしている小柄な少女」である。また、明るくて強気でおてんばな性格をしている。更に、武術に長けることが多い。逆に男性キャラクター(特に若い男性)はほとんど「アルヨことば」を喋らない。例えば、80年代の漫画作品『Dr.スランプ』に登場する「摘一家」、家族全員「アルヨことば」を喋っている。しかし、2003年の漫画作品に登場する中国系女性キャラ「神楽」は「アルヨことば」を喋るのに対して、彼女の父と兄は標準語を話す。このように、昔の作品で登場する「アルヨことば」の話者のイメージが大きく変わったと言えよう。

原因：「アルヨことば」にはかつての日本人が中国人に対する偏見は反映されている。しかし、社会状況の変化などによって、その偏見は段々と薄くなっており、「アルヨことば」は他の役割語と同じ、単なる人物像を強く印象付けるために使われるようになったと考えられる。この変化から、日本人の中国人に対するステレオタイプの変化がうかがわれる。

6. 「アルヨことば」の中国語訳について

80年代の作品『Dr. スランプ』と2000年以降の作品『銀魂』のそれぞれの漫画とアニメの中国語訳について、考察を行った。

結果：80年代の作品に対して、漫画版においても、アニメ版においても「アルヨことば」は明確に訳されていないことが分かった。2000年以降の作品に対して、漫画版は明確に翻訳されていないが、一部のアニメ版において、「アル」に該当する訳語が観察された。表(3)を参照

表(3)

日本語	中国語訳
大体、今時、口癖が「アル」のチャイナ娘なんて、古いんだよ！	这年头女主角还拿“ <u>的说</u> ”当口头禅，实在太老土了。
ルールは破るためにあるアルよ。	规则就是让人打破才存在的说。
なーにやってるアルか、こんなところで。	你在这种地方，干什么呢阿鲁？

結論：「アル」の訳は“的说”と“阿鲁(啊鲁)”の二つが見られる。“的说”は近年、台湾から流れ込んできた言葉遣いであり、若い女性がよく文末に付け加えて、自分をかわいく見せるために使っている。したがって、「神楽」という少女キャラクターに使わせても理解できないことではない。一方“阿鲁”は完全に「アル」の音訳となっている。しかし、“的说”と“阿鲁”のどちらも「アル」が本来持っている意味と役割を正確に伝わったと言えない。日本語の役割語を正確に訳すことが極めて難しいと言えよう。にもかかわらず、完全音訳をあまり好まない中国人でも、音訳してまで訳すことは、「アル」は「神楽」という人物像を生き生きと表現するために欠かせない存在と認識できたからであろう。台湾で出版された漫画版に「アル」が訳されなかったことについて、出版社の電子掲示板で指摘のコメントも見られる。このように、「アル」を訳すようになったことは、日本の漫画作品に大量に接触することによって中国人の翻訳者たちの役割語に対する認識が芽生えてきたと言えるだろう。また、“阿鲁”はキャラ助詞の特徴を持っており、すべてのタイプの文末に置くことができる。一方、“的说”は使用制限が見られる。

① 疑問文の後ろに現れにくい

(18) 「見て分からないアルか」(『銀魂』アニメ第9話)

这都看不懂吗？

(19) 「ていうか、何を決めてるアルか」(『銀魂』アニメ第43話)

说回来到底要弄出什么结果？

② 他の語気助詞、“啊”、“呀”、“哦”などを用いた場合は、“的说”を使わない

(20) 「私がいないとそんなにさびしいアルか」(同上)

原来没有我这么寂寞啊。

7. 今後の課題

今回の考察は、主に役割語が現れやすい漫画やアニメなどのサブカルチャー作品に登場する2次元のキャラクターを中心に行ったが、今後、映画やテレビドラマなどで登場する3次元の中国系キャラクターも視野に入れて考察を深めたい。また、近年に見られる「アルヨことば」の独特なイントネーションはいったいどこから来たのか、西洋人キャラクターの訛りと同様かどうかなどの音声の側面をより分析したい。更に、中国語訳に対して引き続き観察し、中国語における役割語の全体の使用状況をより明確に把握したいと思う。

主要参考文献

金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店

金水敏(2007)「役割語としてのピジン日本語の歴史素描」金水敏(編)『役割語研究の地平』くろしお出版社 pp. 193-210

定延利之(2007)「キャラ助詞が現れる環境」金水敏(編)『役割語研究の地平』くろしお出版社 pp. 27-48

定延利之・張麗娜(2007)「日本語・中国語におけるキャラ語尾の観察」彭飛(編)『日中対照言語学研究論文集：中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴』和泉書院 pp. 99-119.

勅使河原三保子(2008)「音声による人物像の表現と知覚」月刊『言語』2008年1月号 pp. 60-65

6 アニメ版について、正式に出版されたものがないため、やむを得ずインターネット上で公開されているものを用いることにした。その中に、2、3種類の訳が見られる。

逆接接続助詞「ノニ」、「クセニ」に関する一考察

- 「ニ」から分析する可能性をさぐる -

大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程 2 年

王 天保(keyway@hotmail.com)

はじめに

現代の日本語文法では「ノニ」、「クセニ」は接続助詞のカテゴリーに分類される。しかし従来の文法研究において「ノニ」は体言標識「ノ」へ助詞「ニ」が付いたものであって、「クセニ」は名詞「クセ」に助詞「ニ」が付いたものという見方が殆どである。この助詞「ニ」について古典文法に遡ると、「ニ」は逆接の接続機能を持ち、さらに接続助詞の「ニ」は格助詞「ニ」から分化したものだと言われている。これらの研究によって「ノニ」と「クセニ」を分析する際に格助詞「ニ」の意味用法を用いることができる可能性が示唆された。小論は「ニ」と「ノニ」の関連性を論じながらその分析の可能性を探りたい。

1 「ニ」、「ノニ」に関する従来の研究

1. 1 助詞「ニ」と「ノニ」

1、山田孝雄の説

- (1) “「に」も前後の事実を総合するに用いるものにして連体形につくなり。これも亦従来齟齬を示すものといはれたるものなれどその然らざることは「が」に同じ。(中略)口語にては上の「に」より出でたる「のに」あり。これはその「の」をば上の句を受けて体言の資格を與ふる為に加えたるものが自然に下の助詞「ニ」と合体して一の助詞の如くなれるなり¹。”

食い違いのある二つの文を繋げるのに、過去には「ニ」だけが使われて良いようである。また「ノニ」は体言資格を与える「ノ」と助詞「ニ」²が結合したものであるということである。

2、松下大三郎の説

松下文法において助詞、接続助詞という項目は立てられていないが、「ノニ」について、“「のに」は「の」へ「に」が附いたもので依拠格の主観的な用法である³”と述べる。ここでも「ノニ」を分析するには、「ノ」と「ニ」を分けて説明する

可能性が示唆されている。

3、辞書の解釈

『大辞林』では“接続助詞「に」の前に準体助詞「の」が挿入されてできたもの。近世以降の語、活用語の連体形に接続する。形容動詞型活用の場合、終止形に接続することもある”と「ノニ」に関して説明されている。

『大辞泉』は“《準体助詞「の」+接続助詞「に」から》活用語の連体形に付く。内容的に矛盾する二つの事柄を、意外・不服の気持ちを込めてつなげる意を表す”と記している。

『広辞苑』は“のに、接続助詞。体言の代用をする助詞ノと助詞ニとが結合したもので、活用語の連体形に付く。助動詞「だ」には終止形にも付く”と記述している。

辞書の説明では「ノニ」は「ノ」と接続助詞「ニ」が合わさったものであるという見解が支持される。

接続助詞の変遷：接続助詞「ニ」→「ノニ」⁴

1. 2 格助詞「ニ」から接続助詞「ニ」、「ノニ」へ

格助詞「ニ」と接続助詞「ニ」、「ノニ」の関わりはどのようなものかについてまず『日本文法講座』は「ノニ」は格助詞から分化した接続詞という観点から説明をしている。

- (2) 「に」は平安時代から鎌倉時代にかけて、順逆ともに広く自由に用いられたが、近世にはいつてからは新しく誕生して似た意味をもつ「のに」と併用されるが、やがて「のに」が優勢となる。現代では「に」は古語的用法となり、規定逆接にはもっぱら「のに」を用い、規定順接には同じく江戸時代からの「ので・で」を用いる。
(『品詞別日本語文法講座—助詞』1973 : p. 96)

- (3) 接続助詞「に」は平安時代に格助詞「に」から

¹ 山田孝雄著『日本文法学概論』1936 : p. 539~p. 540

² 山田氏がここで述べた助詞「ニ」は接続助詞の「ニ」であるが、格助詞の「ニ」は言及していない。

³ 松下大三郎著『標準日本口語法』、1977 : p. 309

⁴ 此島正年氏の説によると、接続助詞は「ニ」～「ノニ」のような変遷が考えられる。此島正年氏(1966 : p. 200~p. 201)によると、接続「に」は江戸語まで続き、接続「を」よりは生命が長かった。しかも、その後継者として「のに」があり、現代語にまで続いている。

転成したものとされる。活用語の連体形に接続する。

(『品詞別日本語文法講座—助詞』1973 : p. 195)

なお、格助詞「に」と接続助詞「に」の関連について山口堯二氏(1980 ; p. 155)は“「に」による接続法の成立には確かに格助詞の関係表示の機能が何よりの前提になる。”と述べた。さらに『国文法講座』の「古文における接続表現」においても、“接続助詞「に」は格助詞「に」から転化したものと考えられる”のような記述が見られる。

まとめ：

変遷：格助詞「に」→接続助詞「に」→「ノニ」
分析可能性：接続助詞「ノニ」、「クセニ」は格助詞「に」の意味を受け継ぐ。

2 格助詞「カラ」と接続助詞の「カラ」

杉村(2002)によると、「から」のプロトタイプ意味は起点で、「から」が表すイメージは「起点からあるところへ向かう動き」である。つまりわれわれは「から」を常に「移動」に想定するのである。筆者は、格助詞「から」の移動の意味は接続助詞にも通用すると考える。具体的に言えば、下例のように、「起点」は「理由」にあたり、「理由」は「結果」に向かって「移動」することが考えられる。

格助詞の「カラ」

(4) 電車で会社^{カラ}家に帰る
会社(起点) → 家(終点)
＜移動＞

接続助詞「カラ」

(5) 天気がいい^{カラ}散歩に行ってきた。
天気が良い(理由) → 散歩(結果)
＜移動＞

またこのような具体的な方向性を示す起点の「カラ」は抽象的な理由を表す「カラ」に対応するという見方は小泉(1987)の論点にも合致するところがある。さらに小泉は以下のように「に」の具体的な着点格の意味は「ノニ」の分析にも適用できる可能性も示唆する。

(6) 日本語では、こうした対立の形態的標識を接続助詞の中に探り当てることができる。(中略)理由文の「～カラ」はもちろん移動の起点格と一致し、譲歩文「ノニ」の「に」は着点格を示唆している。その前に来

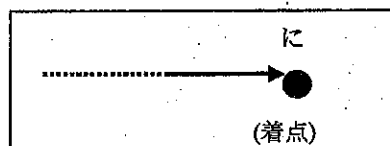
る「ノ」は名詞化の標識と見なされる。ただし、「ノニ」の「に」は方向というよりも「車が電柱に衝突した」の例に見られる運動の障害を表すのに用いられるようである。”

(小泉1987 : p. 5)

3 格助詞「に」と接続助詞「ノニ」

3. 1 「に」の表す着点の意味

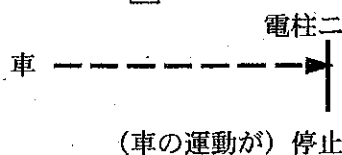
杉村(2002)は格助詞「に」の表す着点の意味を具体的に下の図のように、矢印は何らかの動きを表し、右端の点は行動の結果の及ぶ＜着点＞を表す。



杉村泰(2002)によるもの

ここで注目してもらいたいのは、杉村はこの着点を表す助詞「に」がある方向に進行する意味を持つことも認めている。この進行の意味と小泉(1987)が述べた、「に」は運動の障害であることをまとめると、以下のように考えられる。

(7) 車が電柱^ニ衝突する。



この構造は後ほど述べる「ノニ」の構造にも通じる。

3. 2 「ノニ」文の構造

渡部(1995)では、「ノニ」文の論理構造を「Pノニ、R」のように規定し、またPから予想・期待される事態をQにしている。

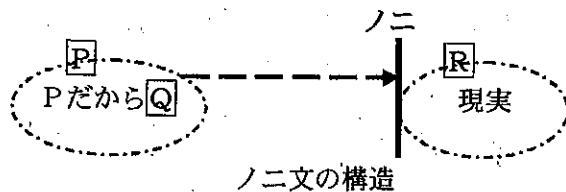
(8) 一生懸命働いた^{ノニ}、不幸なことに(私は)仕事も家族もすべてを失ってしまった。
(渡部1995 : p. 558)

P : 一所懸命働くから、

Q : 良い結果がおとずれると期待した。

R : 不幸なことに(私は)仕事も家族もすべてを失ってしまった。

小論は渡部(1995)が用いるPQR構造に基づいて、上述した「に」の「着点・障害」の意味を加えて新たに「ノニ」文の構造を次のように考える。



「PノニR」という論理構造の中に、前件P(条件)からQ(結果)になるという論理関係が内在する。しかし実際にはPはRと言う事柄を招く。そして、PはQのはずだが、Rであるという、食い違いが生じ、「PノニR」は逆接と捉えられる。

「ノニ」の「ニ」は運動の着点・障害を表す役割を果たすと想定すると、次のような認知プロセスが考えられる。前件PだからQという論理関係の移行が「ニ」という障害に妨げられ、現実に至らなくなるプロセスである。つまり「ニ」がP→Qという論理関係は「ここまでだ」と示唆して、Pだから(すれば)Qという話者が思う論理的な推論は「ニ」に妨げられ現実で成り立たなくなる。このように話者が当たり前だと考えるもの、あるいは希望は成立できなくて、さらにその推論は現実の事態と合致せず、Rとは明らかに食い違った場合、不満・意外などの負的感情が浮き出すことが考えられる。

3. 3 「ニ」が提示するP→Qの論理性

ここでP→Qという話者が思う論理関係について下の表のように、小論はP→Qを常識に基づく論理的な推論、と恒常性が保障されない推論に分ける。

常識に基づく推論	
条件P	期待値Q
塩を入れると	料理がしょっぱくなる
雨が降ると	試合は順延する
恒常性が保障されない推論	
条件P	期待値Q
試合が行われる時	雨が望ましくない
女であると	やさしいはず

常識に基づく推論は必然性が高く、通常はP→Qの関係が変わらない。もし常識が現実で成立しない場合、われわれはおかしい、不思議だなど

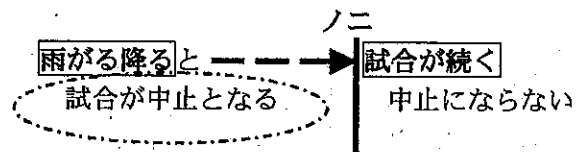
既に実現した事態Rが予想Qとは明らかに食い違った場合、自分の想定した物事は成り立たないから、不満・非難などの感情が浮き出すことが考えられる。(才田(1980)、鈴木(1986)、今尾(1994)、前田(1995)、渡部(1995))

の情緒を抱くと思われる。

恒常性が保証されない推論は必然性が低く、主観性が高いものである。このような論理関係が崩れた場合も「ノニ」が表す不満、意外感に関わる。それは希望が叶わないという現実がもたらす意外、不満の感情である。

(9) 雨が降っているノニ試合が続いている。

(10) 試合が続いているノニ雨が降ってきた。



例(9)において、「雨が降る」という前件から、「雨は試合を邪魔する。雨の日に試合が行われない」などの常識に基づく論理関係が想定される。しかし、前件からの論理関係の移行は「ノニ」の「ニ」に妨げられるので、現実にもうまく繋がらなくなる。発話者にとっては予想した論理関係が成立せず、さらに、後件Rの「中止にならない」という事柄も予想した論理関係とは食い違うものなので、この文は意外のムードを含む逆接複文と捉えることができる。

それに対して、例(10)は(9)のP、Rが逆になる場合である。「試合が続く」という前件から、「試合が行われるときに雨が望まれない」などの恒常性が保証されない推論に基づく論理関係が思われる。しかし前件からの論理関係の移行は「ノニ」の「ニ」に妨げられ、現実にも繋がることができなくなる。「ニ」が発話者の予想した論理関係が成立しないということを提示し、さらに、後件Rの「雨が降った」という事柄も話者の思った論理関係とは食い違うものなので、この文は話者の不本意のムードを表す逆接複文となりうる。

(11) あの男はまだ二十歳なノニ、髪の毛が真っ白。

また例(11)においても、「ノニ」の「ニ」が「P→Q」という論理関係の不成立を示していると考えられる。前件Pの「二十歳」に対し、我々は自然に「若い」故に「白髪は生えない」という推論をする。しかし、この論理関係が成り立たず、さらにわれわれは自分の信じる常理が現実世界の事

態Rと合致できず、否定されたので、意外、疑惑の情緒を生成すると言えよう。換言すれば、当然の論理関係は「ニ」によって壊され、さらに後件の「頭が真っ白」という事実も、この論理関係に対立したので、この文も意外などの負の感情を含む逆接になると考えられる。

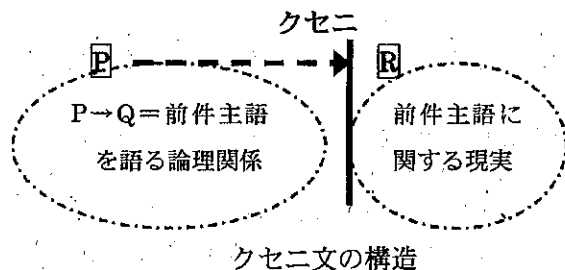
(12) 北海道は、冬は寒い(??ノニ/ガ)、梅雨はない。

ところが、(12)のような論理関係が弱い複文の場合、「ノニ」は使いにくいと思われる。

4. 「クセニ」について

「ノニ」・「クセニ」の論理構造は基本的には同様と考えられる。しかし、「クセニ」の使用にはある制限があって、それは「クセニ」によって結ばれる前文と後文とが同一の主語でなければならないことである(佐久間 1956)。この使用制限がついて、小論では「クセニ」の使用制限はその語彙の本義に関係あるという視点から考えてみたい。

「クセニ」は名詞「癖」に助詞「に」が付いた複合辞⁶である。したがって逆接の接続助詞「クセニ」には「癖」本来の意味が残っていると言えよう。「癖」というのは、人が無意識にしきりにする動作、習慣、欠点、または偏った好みや傾向などの意味がある。いわば、癖はある単一人物の習性を指す語彙であろう。そこで、「クセニ」を使用するときには、名詞「癖」の単一人物の習性を指すという意味の影響を受け、P→Qという論理関係にもその同じ人物の物事に限られているであろう。そして、論理関係は単一人物に制限されたから、その同じ人物に関する論理関係に矛盾があるときに限って、その人物を非難することができると言えよう。したがって「クセニ」を使用するときには前件と後件の主語は同一でなければならないと考える。

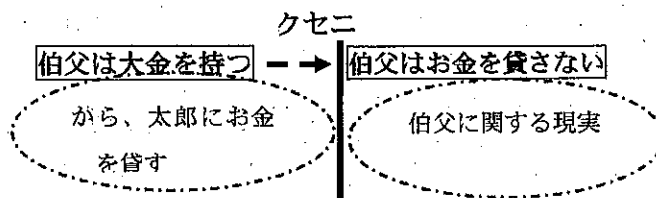


⁶ 『大辞林』によると名詞「癖(くせ)」に格助詞「に」が付いたもの。主として話し言葉で用いられる。

(13) 伯父は大金を持っている(ノニ/クセニ)、
(伯父は) 太郎に金を貸さない。

(14) 伯父は大金を持っている(ノニ/*クセニ)、太郎は金を借りない。

(今尾 1994:p. 96)



(13) では「ノニ」、「クセニ」とも認められるが(14)では前件と後件は同一主語ではなく、「クセニ」が使いにくい。それは「クセニ」構文において予想の対象が単一人物に制限されているからである。

(15) ようやく雨が降った(ノニ/*クセニ)、
すぐ止んでしまった。

(才田 1994:p. 97)

また、(15)が示すように、森田(1989)が指摘した「(の)クセニ」は自然現象や無生物主語などには使えない点についても前後文は同一主語でなければならないという制約と同じように、「クセニ」の「癖」が生物の習性を指すという意味と関係すると考えられる。

《参考文献》

- 今尾ゆき子(1994)「条件表現論—ガ/ケレド/ノニ/クセニ/デモ—談話語用論からの考察—」『日本語学』8-13 大阪大学文学部
- 衣知智秀(2005)「日本語の「逆接」の接続助詞について—情報の質と処理単位を軸に—」『日本語科学 17』国立国語研究所 国書刊行会
- 小泉保(1987)「談歩文について」『言語研究』91
- 此島正年(1966)『国語助詞の研究』桜楓社
- 才田いづみ(1980)「「のに」と「ても」」『アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センター紀要』3
- 佐久間庸(1956)『現代日本語法の研究』くろしお出版
- 杉村泰(2002)「イメージで教える日本語の格助詞」『言語文化研究叢書』1 名大言語文化部・国際言語文化研究科
- 鈴木一彦、林巨樹(1973)『品詞別日本文法講座 助詞』明治書院
- 鈴木一彦(1984)『研究資料日本文法 ⑤助辞編(一) 助詞』明治書院
- 前田直子(1991)「『論理文』の体系性—条件文・理由文・逆条件文をめぐって—」『大阪大学 日文学報』10 大阪大学
- 松下大三郎(1976)『標準日本文法』勉誠社
- 森田良行・松本正恵(1989)『日本語表現文型』アルク
- 山口明穂編(1987)『国文法講座 第三巻』明治書院
- 山口亮二(1980)『古代接続法の研究』明治書院
- 山田孝雄(1936)『日本文法概論』寶文館
- 渡部学(1995)『ケド類とノニ』『日本語類義表現の文法』くろしお出版

日本語と韓国語の複合動詞の対照研究

－「変更」、「交換」、「修正」を表す複合動詞の意味と統語素性－

大阪大学大学院言語文化研究科 博士後期過程2年

全 敏杞

1. はじめに

1.1. 問題提起

- (1) ile/seta mile/olita ttyaley/cwukita
「立ち/上がる」「押し/上げる」「殴り/殺す」
- (2) aikho-nun syantulul pwuchu-lo pakkwe sin-essta.
愛子は サンドルを ブーツに かえ 履いた
「愛子は サンドルをブーツに履きかえた。」
- (3) aymata-nun os-ul kapang-ulo kochey mantul-essta.
山田は 服を カバンに 直し 作った
「山田は 服を カバンに 作り直した。」

塚本(1997)では韓国語は語彙的語形成をしているため、様態を表す「pakkwe+V」、「kochey+V」が逆語順で成り立つと述べている。しかし具体的な根拠を示していないため、本発表では「pakkwe+V」、「kochey+V」の語形成をはじめ意味、統語素性を検証、日本語の複合動詞と比較・分析する。

1.2. 先行研究

1. 2.1 塚本(1997)

「pakkwe」と「kochey」は、様態を表す要素を動詞に結合した動詞であり、語彙的語形成によるものである。韓国語も右側主要部の規則に従う。

- (4) chelswu-nun pansomya-lul kinsomya-lo pakkwe ip-essta/kala ip-essta.¹
チョルスは 半袖を 長袖に かえ着た/かえ着た
「チョルスは半袖を長袖に着がえた。」
- (5) haksyang-un d-lul b-lo kochey sse-ssta.
学生は dを bに 直し書いた
「学生はdをbに書き直した。」

1.2.2 由本(2005a, b)

「V+かえる」は「V1 が含意する結果状態に含まれる何かを別のものや状態に変えること」である。「V+直す」は「V1 の行為の反復とそれによる状態変化使役」を意味する。両複合動詞は意味の差異があるものの、同意のものとして使われる場合もある。

- (6)a. 来年は家を{建てかえる/建て直す}予定で貯金しています。
- b. 当時は、結婚後も娘の頃の着物を{染めかえて/染め直して}着ていた。

以下のような条件で交替可能であると分析する。

¹ 「kala+V」はごく一部の動詞としか結合しないため、本発表では取り上げないが、今後の課題としたい。

① V1に使役・状態変化がある。② V1が反復可能な事象を表す。③「直す」が表す反復の意味の作用域で表す項が、「V+かえる」における変更の対象に対応する。④「V+直す」においてV1が「に」格名詞句と共起にくい。「に」格と共起するのは結果述語としてV1が含意する結果属性と融合できる場合である。

(7) xがyを赤に染め直す

本発表では、日本語の複合動詞に関しては由本(2005a, b)の研究に基づき「pakkwe+V」と「kochey+V」の意味と統語素性と比較・分析する。

2. 「pakkwe+V」と「kochey+V」の意味と統語素性

2.1 語彙的複合動詞としての性質

韓国語では「動詞+動詞」を「句」と認めるか、「複合動詞」として認めるかに関する議論がある。

(8) panhg-ul ttaye- mekta.

パンを ちぎって 食べる。

(8)のように韓国語には日本語のように「句」として区別する要素がなく、韓国語の複合動詞は日本語ほど「語の形態的緊密性」が厳しくない。

本発表では同じ語順の複合動詞がある反面、逆語順を見せる点に着目し、広範囲の複合動詞を認めている金鎰炳(2000)²の複合動詞の範疇を前提にして検証する。

「pakkwe+V」と「kochey+V」は受身形³と、主語尊敬形が可能である。

(9) ilpone-nun oylyae-lo pakkwe malhya-ceyssta.

日本語は 外来語に かえ 言われた

「日本語は外来語に言いかえられる。」 (受身形)

(10) sensyangnim-un A-lul B-lo kochey ssu-sseyss-ta.

先生は Aを Bに 直し 書いた

「先生はAをBに書き直された。」 (主語尊敬形)

「pakkwe+V」と「kochey+V」は語彙部門で形成され、一語として振舞うと見られる。

2.2 「pakkwe+V」の意味と統語素性

単独動詞として使った場合「pakkwuta」は「変更」と「交換」の2つの意味があり、複合動詞に引き継がれる。

(11) A-lul B-lo pakkwe ssuta=A-lul B-lo pakkwe-se ss-essta.

Aを Bに かえ 書く = Aを Bに かえて 書いた

「AをBに書きかえる。」

(12) emma-wa us-ul pakkwe ip-essta

母と 服を かえ 着た

「*母と服を交換して着た。」

2.2.1 「変更」を表す「pakkwe+V」

「pakkwuta」の主語は「変更」、「交換」のいずれの意味でも動作主(agent)であり、「pakkwuta」の選択

²金鎰炳(2000)では「-se (=〜)」の挿入可・不可と意味の変化による分類を行い、全て「合成動詞」と認めている。国立国語院の国語大辞典では「合成動詞」と「複合動詞」は同意である。

³韓国語の受身形には「-i, -hi, -li, -ki」の被動詞によるものとほぼあらゆる動詞と結合できる「-e cita」がある。

素性が「pakkwe+V」にも受け継がれる。

「pakkwe+V」は「変更」の対象を「lo/ulo」(=に格)格名詞句で表し、その対象は別のものにならなければならない。

- (13) oylyae-lul hankwuke-lo pakkwe malhata

外来語を 韓国語に かえ 言う

「外来語を韓国語に言いかえる。」

作成動詞、位置変化動詞と結合は対象を表す「ul」、「lo/ulo」名詞句を要求する。着点の代わりに結果述語を表すと容認性が低くなる。

- (14)a. *ppang-ul twungkul-kye pakkwe mantulessta.

パンを 丸く かえ 作った

「*パンを丸く作りかえた。」

- (15) *kanphan-ul ttokpalo pakkwe kelessta.

看板を まっすぐ かえ 掛けた

「*看板をまっすぐ掛けかえた。」

2. 2.2 「交換」を表す「pakkwe+V」

「交換」を表す「pakkwuta」は複数の主語を表し、「pakkwe+V」の場合でも相互性を表す。

- (16) chinku-wa wenphisu-lul pakkwe ipessta

友達と ワンピースを かえ 着た

「友達とワンピースを交換して着た。」

- (17) senpya-wa cha-lul pakkwe thassta

先輩と 車を かえ 乗った

「先輩と車を交換して乗った。」

(16)の「wenphisu=ワンピース」と(17)の「cha=車」は「お互いのもの」を「交換」し、「着る」や「乗る」という動作を行うという解釈ができる。

(18)のように「pakkwe+V」は「lo/ulo(=に)」格と共起しない場合、二通りの解釈ができる。

- (18)a. kwutwu-lul pakkwe sinta.

靴を かえ 履く

「靴を履きかえる。」

- b. enni-wa kwutwu-lul pakkwe sinta.

姉と 靴を かえ 履く

「姉と靴を交換して履く。」

2.3 「kochey+V」の意味と統語素性

「kochita」は「修正」という意味があり、目的語のみを対象とする。

- (19)a. tap-ul lyese 2lo kochey sse-ssta

答えを 1から 2に 直し、書いた

「答えを 1から 2に 書き直した。」

- b. hanmwun-ul swiwun mwuncangulo kocey-ssta.

漢文を やさしい 文章に 直した

「漢文を易しい文章に書き直した。」

「kochita」の「修正」の意味は目的語に限定するため、状態変化動詞とは結合できない。

(20) *pwulkkye kochey mwultul-ita.

赤く 直し 染める

「赤く染め直す。」

3. 両言語の複合動詞の比較

3.1 「V+かえる」と「pakkwe+V」

	「V+かえる」	「pakkwe+V」
主要部の位置	V2(V1 の LCS が手段を表す)	「変換」: V2(V1 が V2 の手段) 「交換」V2(V1 が V2 の補文関係)
結果状態動詞との結合	部分的可能(結果属性を要求する)	不可(V2 の対象は別のものに変 わらなければならない)
選択素性	V1 の対象と V2 の対象が同定(V2 の選 択素性が優先)	「変換」: 同定 「交換」: V1 の下位範疇化素性が V2 に受け継がれる

3.2 「V+直す」と「kochey+V」

	「V+直す」	「kochey+V」
主要部の位置	V2(使役・状態変化を含める)	V2
「態」化動詞との結合	可(一部)	不可
選「素」素性	V2	V2

4. まとめと今後の課題

「変更」を表す「V+かえる」と「pakkwe+V」は意味、統語素性において、かなり類似している。しかし、「交換」を表す「pakkwe+V」は違う特性を持っている。「修正」の「V+直す」と「kochey+V」は「直す」と「kochita」の意味解釈と語の主要部の違いがある。

韓国語には「V+直す」のように V1 のやり直しを表す複合動詞がなく「tasi(再び)+V」という形態しか取れない。今後日本語の複合動詞と「tasi(再び)+V」などの対応などを検証する。

主要参考文献

影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ出版。

塚本秀樹(1997)「語彙的語形成と複合動詞—日本語と朝鮮語の対照研究—」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究報告書 平成9年度I』pp.161-172.

由本陽子(2005a)『複合動詞・派生動詞の意味と統語 モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』ひつじ書房。

由本陽子(2005b)「V+かえる」と「V+直す」の意味と統語」『日本語文法』5巻2号; pp110-127.

金起赫(1995)『国語文法研究(形態・統語論)』Seoul pakiceng.

金鎰炳(2000)『国語合成語研究』Seoul eyklak chwulphansa.

中国語の語気助詞“呢 (NE)”のカテゴリー化

大阪大学言語文化研究科博士後期三年 周艶紅

1. はじめに

中国語の語気助詞“呢 (NE)”は中国語教育の難しい問題の一つである。例(1)のような疑問文にも使われるし、(2)のような平叙文にも使われる。そして、疑問文に使われる場合、(3)のような“吗 (MA)”とは違い、疑問詞か疑問形式のある疑問文に用いられる。

(1) 你 问 谁 呢?
あなた 聞く 誰 NE

訳：あなたは誰に聞いているの。

(2) 外面 下 着 雨 呢。
外 降る ~ている 雨 NE。

訳：外は雨が降っているよ。

(3) 明天 走 吗?
あした 行く MA

訳：明日行きますか。

2. 先行研究

2.1 NE 1 と NE 2 の二つに分けて捉える；

2.1.1 疑問を表す；呂叔湘『現代漢語八百詞』（1980）や劉月華ほか『現代中国語文法総覧』（1982）は“呢 (NE)”の第一の意味項目を疑問としている。

木村（1993）と史金生（2000）はともに“呢 (NE)”の基本的な意味を疑惑としている。

2.1.2 非疑問を表す；呂叔湘や劉月華①誇張か強調を表す。②持続態を表す。

木村（2006）は「命題の外側にある話し手にとっての空間領域に定位する形式である。つまり、“呢 (NE)”は実存相である」と主張している。

2.1.3 その他；話題提起あるいは一時的停止(中頓)。

2.2 統一的に捉える；

2.2.1 胡明揚（1981）一注意を喚起する。邵敬敏（1989）では胡のこの主張を受け継いで、さらに「いったい〜」という派生的な究明という意味を加えた。

2.2.2 関連を表す；Chu(1998)では「“呢 (NE)”は従属節あるいは文の間の連結を表す小辞である(Ne as a Particle of Inter-Clausal/Sentential Linking)」と述べている。

2.2.3 Li and Thompson. (1981)「期待に対する応対」；

2.2.4 井上・黄（1998）「対立事項の存在」；

3. 主な用法

“呢 (NE)”が文の中で、どのように使い分けられているかで以下の四つに分類できる。

I 疑問文

a 疑問詞疑問文(不定疑問文) “谁 (誰)、怎么 (どんな)、什么 (何)、哪儿 (どこ)”などの疑問詞と、共起する。

b 選択 (正反を含む) 疑問文 ; c 反問 ; d 省略疑問文

II 平叙文-強調 “才”、“可”、“还”などの副詞と共起し、強調、誇張の語感を生み出す。

(4) 他 还 会 作诗 呢。

¹ 用例は《現代漢語八百詞》による。

彼 また できる 作詞 NE
訳：彼はまた詩も書くんだよ。

Ⅲ 平叙文-持続 “正”、“正在”、“在” 或いは “着” などの持続を表す副詞やアスペクトマーカ―と共に起する。

Ⅳ 文中 文の中の一時的停止として使われる。

(5) 如今 呢, 可 不 比 往常 了。
今 NE 強調 否定 比べる 昔 変化終助詞
訳：今はね、昔とずいぶん違うよ。

共時的に考察を行った結果、用法ⅠからⅣの“呢”は別々に独立しているわけではなく、Ⅳ文中―自問自答、省略疑問文―Ⅰ疑問文―反問、強調―Ⅱ平叙文-強調―“还 (HAI)”と共にⅢ平叙文-持続のように、連続性が見られる。よって、統一的な説明ができるように思われる。

“呢 (NE)”の本質的な意味として、以下のような仮説を立てる。“呢 (NE)”は話者が聞き手に対して「当該情報を確認せよ。さらに関与的な知識情報を付け加えた後、適当な推論を行え。」という指示の気持ちである。

本発表では“呢”の由来から“呢”の統一までを紹介し、通時的な視点からこの“呢”の本質的な意味の仮説を論証する。

4. “呢”の由来

“呢”は指示代名詞“爾”から来るものである。それから、複雑な変化を辿って、清の時代に“呢”に統一した。

4.1 “爾”について

馮春田(2000)は各先行研究を踏まえた上で、“呢”の由来は指示代名詞“爾”であることを支持し、“爾”から変化した“爾”は非疑問文にも使われていたことを、指示から転じた肯定の意味を表した例文を挙げて証明した。

“爾”の意味 発音 ěr

《漢典》による

- 你, 你的: ~父。~輩。~汝 (你我相称, ・系密切)。~曹 (你们这些人)。~虞我诈。
→二人称、あなた、あなたの
- 如此: 偶~。不过~~。→そう。
- 那, 其 (指时间): ~时。~后。→その、それ
- 而已, 罢了 (亦作“耳”): “布衣之怒, 亦免冠徒跣, 以头抢地~”。
→そうそう。
- 词尾, 相当于“地”、“然”: 卓~。率~ (轻易地)。→その様。

“爾→呢”は文法化のプロセスでもあるが、“爾”の本来の意味が今の“呢”に何らかの痕跡を残していると思われる。例えば“吗 (MA)”の由来は否定を表す“無”であるため、“吗 (MA)”を用いた疑問文の答えは必ず肯定か否定で応じる。“呢”の由来は指示代名詞“爾”である。そして「あなた、そう、その」などの指示という性質が何らかの形で今の“呢”構文にも残っているように考えられる。なぜなら、今の“呢 (NE)”は聞き手がいる会話文にしか出現しないからである (自問自答の文においては相手がいるように発問し、さらに自分で答える)。そのため、今の“呢 (NE)”を用いた構文は聞き手指向である。聞き手に対して「今提供した情報の中には聞き手の貴方が注意すべきそのことがある」というふうに聞き手の注目を引く役割を果たしていると考えられる。

主張1: “呢 (NE)”の由来は指示代名詞“爾”であることから、“呢 (NE)”を用いた構文は聞き手向きと考えられる。話し手の発話には聞き手に対し注意を引くという要求が含まれている。

2.2.1の胡明揚(1981)の注意を喚起するという主張と一致する。しかし、具体的にどのような内容の注

意を引くのかは“呢 (NE)”の統一と深く関わっている。

4.2. “呢 (NE)”の統一

孙锡信(1992)(2001) 疑問文のNE “爾(尔)→嚮、你、尼→呢”

平叙文のNE “里/裏→哩→呢”

(2001) “呢/哪”・“哩/哪” → “呢/那”

江蓝生(1986) 疑問文のNE “爾→嚮、你、尼→那/呢”

平叙文のNE “里/裏→那/哩→呢”

4.2.1 疑問文に使われる“呢 (NE)”の発展

疑問文に使われる“呢 (NE)”の用法は“爾”からきたものである。下の例では“何”という疑問詞が使われており、疑問詞疑問文である。

(6) 冬，十有一月壬辰，公薨，何以不书葬？隱之也。何隱尔？弑也。 《公羊传》

訳：（・・・王が死んだことを隠され、葬式も挙げなかった）どうして隠したのか？殺されたからだ。

晩唐五代²の有力な文献《祖堂集》には“嚮、你、尼”の用例が載せられている。主に疑問詞疑問文に出現するが、省略疑問文の用例も見られる。

(7) 师问：“云岩作什摩？”对曰：“担水。”师曰：“那个尼？”对曰：“在。”

訳：師が「雲岩は何をしている？」と聞く。「水を運んでいる。」と答える。師が「あの人は？」と聞く。「いる」と答える。

語気助詞“那 (NA)”の使用が“嚮”より早いことが魏晉の時代の文献に既に出ていることにより実証されている。“那 (NA)”は宋の時代には是非疑問文と反語文に使われていたが、金元の時代になると、選択疑問文にも使用されるようになった。清の時代には“呢 (NE)”と“那 (哪) (NA)”が混用され、全ての疑問文に使われているが、“那 (哪) (NA)”は“呢 (NE)”よりやや強い語感が感じられる。

(8) 到了镇店上，是卖给粮食店哪？还是卖给客人呢？ 《官话指南. 14》

訳：町の店に着いたら、お米屋さんに売るのが、それとも(直接に)買い物客に売るのが。

4.2.2 平叙文に使われる“呢 (NE)”の発展

“裏”が唐の時代から語気助詞として使用され始めた。初めは誇張か弁明の語感を表した。平叙文にだけ使用される。元の時代に“裏”が“哩”に変わって、疑問文にも使われ始めた。“那”との混用も見られる。

(9) 你做什么 哩？ 《元曲选，救风尘》

訳：あなたは何をしているのか？

(10) 俺居士在家念佛 哩。 《元曲选，来生债》

訳：うちの旦那は家で念仏しているよ。

(11) 我跟前下说词 那！ 《元刊，气英布》

訳：私はその時言い訳をしたよ。

“呢 (NE)”の統一には“那 (哪) (NA)”との混用が重要な役割を果たしていることが分かる。明の《水浒传》では“哩”は平叙文にしか使用されておらず、“呢 (NE)”にはまだ統一されていない。清の《红楼梦》では“呢 (NE)”がすでに疑問文と平叙文の両方に用いられている。

² 唐 618-907 — 宋 960-1279 — 金 1126-1234 — 元 1206-1368 — 明 1368-1644 — 清 1616-1911

4.2.3 主張2: カテゴリー化

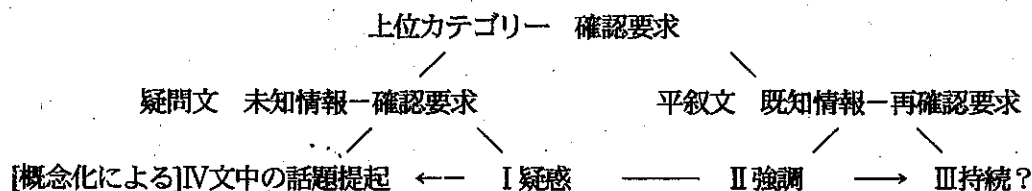
“呢 (NE)”は“爾”から発展してきたが、後に“裏”という平叙文の用法が加わり、疑問文の用法と平叙文の用法が融合された段階があった。そして“那”との混用を介して、清の時代に“呢 (NE)”の一字に統一された。

主張2: この二つの“呢 (NE)”の統合は単に文字や音声³が統一されたというだけではなく、人間の認知によるカテゴリー化が行われた結果であると考えられる。具体的には「確認要求」という上位の意味カテゴリーにより、疑問文と平叙文の用法がまとめられ、また他の語気助詞と区別がなされる。

カテゴリー化とは人間の認知における基本的な働きで、類似性や差異に基づいて、経験する物事をまとめたり区別したりするプロセスのことを言う。

概念化とは固定化した概念だけではなく、知覚、運動感覚、感情的経験や社会的/物理的/言語的コンテキストの把握などの心的経験を含む。
『ことばの認知科学事典』

疑問文の用法Ⅰから用法Ⅳ-文中への拡張は証明できた。この二つの用法の“呢 (NE)”の働きは未知情報に対する「確認要求」である。平叙文の用法Ⅲ-持続は持続態と共起しているが、用法Ⅱ-強調の一種と考えられる。用法Ⅱと用法Ⅲの“呢 (NE)”の働きは既知情報に対する「再確認要求」である。よって、四つの用法は共通して「確認要求」をしているので、同じ上位カテゴリーに配属できると思われる。四つの用法に共通している本質的な意味、言い換えれば上位カテゴリーとしての意味が一つであるため、疑問文と平叙文の用法が一つにまとまることができ、それに対応して言語表現が“呢 (NE)”一つに統一されたと言える。これはまさに人間の「まとめる」というカテゴリー化の認知能力によると考えられる。われわれ人間の認知によるカテゴリー化が行われた結果、“呢 (NE)”が統一されたのである。



“呢 (NE)”の通時的な研究から二点、つまり上の主張1と主張2、が明らかになった。さらに、この二つの主張によって、仮説の有効性が検証できた。

主な参考文献:

- 井上・黄 (1998) 「日本語と中国語の省略疑問文『αハ』『α呢』」『国語学』192集
 木村英樹 (2006) 「『持続』・『完了』の視点を超えて—北京官話における『実存相』の提案—」『日本文法』6巻2号
 胡明扬 (1981) 北京話中的語氣助詞和嘆詞, 《中国語文》第5, 6期
 江藍生 (1986) 疑問語氣詞“呢”的来源, 《語文研究》1986第二期
 史金生 (2000) 語氣詞“呢”在疑問句中的功能, 《面臨新世纪挑戰的现代漢語語法研究》山東教育出版社
 邵敬敏 (1989) 語氣詞“呢”在疑問句中的作用, 《中国語文》第3期
 孙錫信 (1992) 語氣詞“呢”“哩”考源補述, 《湖北大學學報》第六期。
 (2001) 宋元語氣詞的發展和變化, 《古漢語語法論文集》
 馮春田 (2000) 《現代漢語語法研究》山東教育出版社
 陸儉明 (1982) 由“非疑問形式+呢”造成的疑問句, 《中国語文》第6期
 刘月华 潘文娛 故(韦华) (1983) 《实用现代汉语语法》(2002增订本) 商务印书馆
 吕叔湘 (1999) (1980初版)《现代汉语八百词 增订本》 商务印书馆

³ 疑問文につく“NE”は文字では“爾→(「漸」の下に「耳」)→尼→呢”という変化をしてきているが、音声の方はni→neという変化である。一方、平叙文につく“NE”は文字は“里/裏→哩→呢”という変化であり、音声はli→neである。

FLASH を利用したマルチメディア教材製作の実践報告 ー日本語単語ゲーム教材を例にー

大阪大学大学院言語社会研究科
通訳翻訳学専修コース M2
丁紀祥

一、はじめに

近年、情報科学技術の急速な発展につれて、あらゆる部門・業種において情報科学技術の優位性が意識され始めた。教育分野も例外ではない。とくにコンピューターは今の時代では、第二言語習得の「教授」と「学習」のための便利なツールとなっている。コンピューターが搭載するマルチメディアは画像・映像・音声・文字など多様な情報を統合する特性を有し、紙製のペーパー教材による文字情報にはない不足点を補うことができる。今後マルチメディア教材の製作・開発は、語学教師が直面する任務となっていくだろう。

二、マルチメディアの定義

マルチメディアとは、文字・画像・映像・音声・動画など複数の伝達媒体を統合したうえ、利用者に操作・相互作用・伝達を遂げるための連結と道具を提供するものを指している。しかし現在では、ほぼコンピューターを利用し、各種の媒体を製作したり統合したりすることを指しているの、現在の「マルチメディア」というものは実は「コンピューター・マルチメディア」そのものである。

三、マルチメディア教材の学習効果

国内外にわたる数多くの教育先駆者達がマルチメディア教材の学習効果について研究を行った。沈亦珍はこう指摘する。人類が経験や知識を得るプロセスとして、40%は視覚による経験で、25%は聴覚による経験で、視聴覚による経験を統合すれば、70%にも達する¹。米国の視聴覚メディア専門家のワッツワースも指摘している。視覚器官に頼る学習の割合は7割で、聴覚器官に頼る学習の割合は2割、残りの1割は他の器官に頼る学習である²。

経験や知識の学習・習得などのみならず、記憶を継続し保存することも、視聴覚という方法に頼らなければならない。末武国弘の研究によると、視聴覚により得た情報はより長く記憶として維持することができる、視覚だけであるいは聴覚だけで情報を習得する場合と比較すれば、その差異はより明らかに見られる、と指摘している³。

表1：末武国弘による情報保持資料研究

利 用 方 法	記 憶 保 持 率	
	三時間後	三日後
耳だけ（口述法）	70%	10%
目だけ（観察法）	72%	20%
目も耳も両方とも使う（視聴法）	85%	65%

マルチメディアのように、特性のある表現法で教育を行えば、授業内容を活発化し、強い印象を与え、学生達にとって効果的な教授法になることが期待できるだろう。

四、ゲーム導入の学習

学習ゲームというのは、ゲームの参加者が技能あるいは価値観を獲得するのに協力するために、デザ

¹ 沈亦珍 (1957)『視聴教育的理論與實際』復興書局

² Wodsworth, R.H.(1983). Basics of audio and visual systems design. Washington, D.C : National Audio-visual Association.

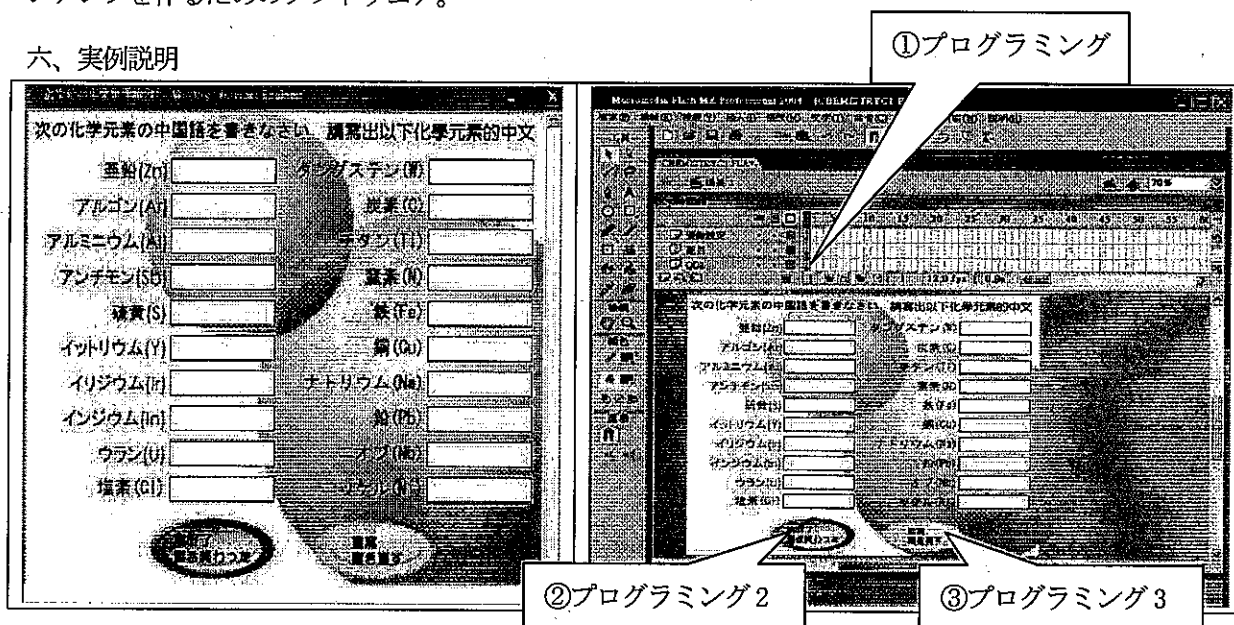
³ 末武国弘 (1977)『教育機器活用の実際と展望—文部省科学研究費・特定研究・科学教育の成果から』学習研究社

イン・利用されるものである。たとえばバスケットボールゲームが、選手達がボールをバスケットに投げ入れる正確度を高めるように訓練させる機器として使われる場合は、このバスケットボールゲームは学習ゲームと言えるだろう⁴ (張玉燕 1994)。教師は適当に教室の雰囲気に応じて、ゲームを提示し、教科の科目と伴い、一緒に行うことができる。そうすると、教育と娯楽両方の「相乗効果」も期待できる。ゲームの愉快的な雰囲気は学習の意欲と効率に高い効果を出している。

五、Macromedia Flash の紹介

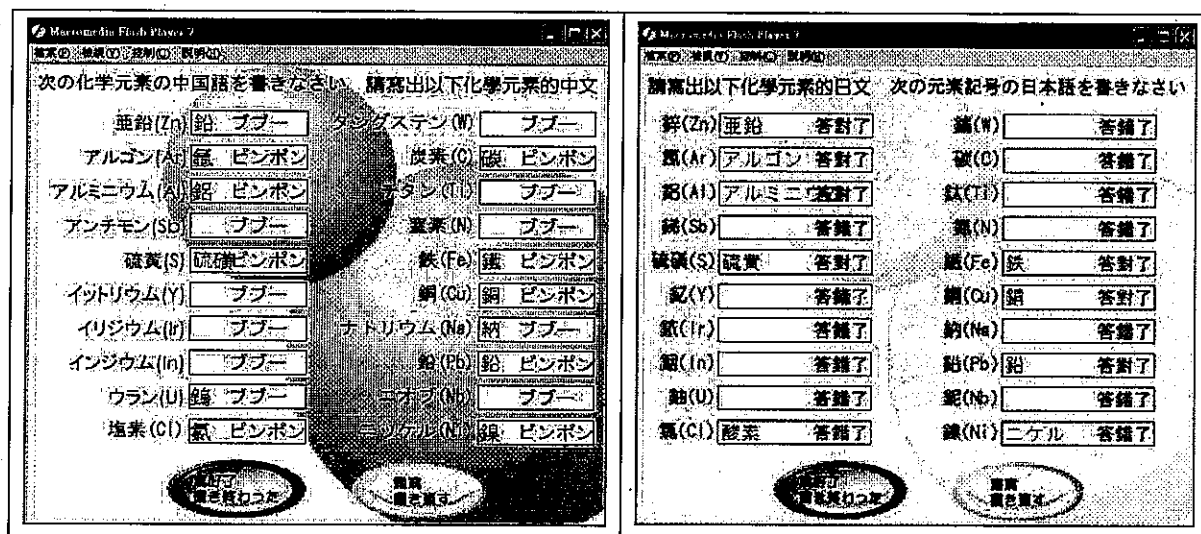
マウスの動きに合わせてアニメーションしたり、音を鳴らしたりなど、インタラクティブなサイトを作成するのに向いている。アニメーション、ゲーム、Web サイトのナビゲーション、音楽再生などのコンテンツを作るためのソフトウェア。

六、実例説明



①プログラミング 1	②プログラミング 2	③プログラミング 3
<pre> ans01 = "鋅"; ans02 = "氫"; ans03 = "鋁"; ans04 = "銻"; ans05 = "硫磺"; ans06 = "鉍"; ans07 = "鈦"; ans08 = "銻"; ans09 = "鈾"; ans10 = "氮"; ans11 = "鎢"; ans12 = "碳"; ans13 = "鈦"; ans14 = "氮"; ans15 = "鐵"; ans16 = "銅"; ans17 = "鈉"; ans18 = "鉛"; ans19 = "鉍"; ans20 = "鎳"; </pre>	<pre> on (release) { if (_root.w20.write20.text==_root.ans20) { with (_root.w20) { gotoAndStop(5); } } else { with (_root.w20) { gotoAndStop(10); } } } </pre>	<pre> on (release) { with (_root.w20) { gotoAndStop(1); _root.w20.write20.text = ""; } } </pre>

⁴ 張玉燕 (1994) 《教學媒體》五南出版社



七、評価

台湾の南部のある大学において日本語を主専攻とする学生 53 名を対象として、アンケート調査とインタビューを行った。まず最初に筆者が本マルチメディア教材について説明した。それから筆者が作ったマルチメディア教材を被験者達に実際に使わせた。直接パソコン教室の中で使わせた場合もあるし、CD に焼いて被験者達に持って帰らせ、使わせた場合もある。最後に、アンケート調査で被験者達の利用状況と評価を記録・分析した。アンケートを回収したとき、簡単に被験者の意見を訪ねた。

調査対象： 合計 53 名 (男：9 名、女：44 名) 1 年生 23 名 (男：3 名、女：20 名) 2 年生 21 名 (男：3 名、女：18 名) 3 年生 7 名 (男：2 名、女：5 名) 4 年生 2 名 (男：1 名、女：1 名)	難易度評価 Q4：今回のマルチメディアゲーム教材について難 A：しく思いますか 大変難しい：25 名 難しい：19 名 まあまあ：8 名 簡単：1 名
ゲーム利用の日本語学習歴の有無 Q1：いままでゲームで日本語を習ったことがありますか？ A：ある：3 名 ない：50 名 Q2：あるとしたらどこですか A：日本語会話教室：2 名 高校：1 名	有効性評価 Q5：このようなゲームは実際の日本語の語彙習得に役に立つと思いますか A：大変役に立つ：16 名 役に立つ：24 名 まあまあ：12 名 あまり役に立たない：1 名 全然役に立たない：0 名
興味度評価 Q3：今回のマルチメディアゲーム教材について面白いと思いますか A：大変面白い：23 名 面白い：20 名 まあまあ：8 名 つまらない：2 名 大変つまらない：0 名	継続利用意欲の有無 Q6：これからもし今回のように、日本語習得に応用するようなゲームがあれば、チャンレジしたいですか A：大変チャンレジしたい：17 名 チャンレジしたい：24 名 意見無し：11 名 あまりチャンレジしたくない：1 名 絶対にチャンレジしたくない：0 名

八、むすび

ゲーム型の教材は「教える」というより「学習者が楽しみながら学習する」ということを目的にしたものである。学習者のモチベーションを高めるに、競争性・楽しさ・ストーリー性・参加性などのゲーム的な要素を取り組んだものである。学習者はこのようなタイプのマルチメディア教材を好意的に評価をすることが多いが、日本語教育用のゲーム型マルチメディア教材はまだ数が少ない。(池田 2003)

たしかに、このようなマルチメディア教材を製作するには、多大な時間がかかる。しかも、たとえ時間をやりくりして、自分の授業と学習者のニーズに合わせるようなマルチメディア教材を製作しようとする教師がいたとしても、コンピューター設備の不足や技術不足など、さまざまな問題や困難を抱えているのは現状がある⁵。結局、日本語教育用のゲーム型マルチメディア教材はまだ数が少ないという状態が依然として続いている。

今後は、役割分担という形で、教師が教材開発やパソコンの習得に悩まされることなく、別にパソコン技術に長けた専門の教材製作人材を育成し⁶、マルチメディア教材の開発・製作に従事すること、あるいは、教師のための第二専門育成プログラムの開設や教材開発のワークショップの開催など、教師自分でも教材が作れるように、パソコン運用技術の向上、習得を図るなどといった解決策によって、マルチメディア教材の開発・製作の問題点や困難点を解決していくことが望ましい。さらに、より効果的な日本語マルチメディア教材の開発・製作によって、より効率的な日本語教育が実現することを心から祈っている。

参考資料

1 中国語

何文楨訳・Fred T. Hofstter 著 (2003)《多媒體概論》麥格羅希爾

沈亦珍 (1957)《視聽教育的理論與實際》復興書局

張玉燕 (1994)《教學媒體》五南出版社

黄紹維 (2005)《Flash 互動式多媒體教材創作之研究—以《黃興斌千變萬化捏麵人》為例》国立嘉義大学 視覚藝術研究科修士論文

2 日本語

池田伸子 (2003)『CALL 導入と開発と実践—日本語教育でのコンピュータの活用』くろしお出版

末武国弘 (1977)『教育機器活用の実際と展望—文部省科学研究費・特定研究・科学教育の成果から』学習研究社

丁紀祥 (2006)『日本語教育におけるコンピュータの活用—日本語能力試験 3 級在宅自習ウェブサイトのデザインを例に』台湾・南台科技大学応用日本語研究科未完成論文

3 英語

Wodsworth, R.H (1983). Basics of audio and visual systems design. Washington, D.C : National Audio-visual Association.

4 ウェブ (最終アクセス日 2008 年 9 月 5 日)

黄紹維個人部落格 互動式多媒體教材製作原則與實務 <http://tw.myblog.yahoo.com/yayaway/>

潛能發展部落 促進幼兒社會性互動之教學遊戲 <http://psn.syinlu.org.tw/archives/000665.html>

⁵ 丁紀祥 (2006) が台湾の大学に勤務している日本語教師を対象に調査を行った。マルチメディア教材開発・製作が容易でない理由として、①コンピュータ設備の不足 40.5%②機械に対する恐怖感があるまたはコンピュータが使えない 25.3%③経済的な負担が重すぎる 13.1%④メンテナンス支援の不足 9.5%⑤その他の理由 11.6% が挙げられる。

⁶ マルチメディア教材開発の人材を育成するための学校教育機構としては、台湾では国立台北教育大学大学院教育伝播科技研究科と私立淡江大学大学院教育科技研究科、日本では立命館大学大学院言語教育情報研究科、などが挙げられる。

多言語・多文化共生社会における言語内翻訳の有用性と処理方略

大阪大学大学院言語社会研究科通訳翻訳学専修コース

博士前期課程2年

山本 一晴

1. はじめに

近年、多言語・多文化共生社会に向けて様々な議論がなされている。2006年に総務省は「多文化共生推進プログラム」の提言を発表し、地域における情報の多言語化や日本語・日本語学習支援の推進を取りまとめた。さらに、2008年3月には日本語教育小委員会が、地域に暮らす外国人が日本語の習得だけでなく医療・福祉・安全・教育・就労・税金等の様々な分野に関する知識も併せて習得できるように学習環境や教育体制の整備の必要性を指摘した。

このような状況の下、関係諸機関は生活に関わる分野の行政情報を多言語化し、情報提供に努めている(佐藤・布尾・山下2005, 金2008)。しかし、在住外国人すべての個別言語に対応した多言語化の実現は容易でない¹。河原・野山(2007)は公的機関における言語サービスの多言語化の限界を人的および財政的視点から指摘した上で、実行可能な方法として「平易な日本語」を言語サービスの一つとして提案している。多言語化における言語選択として「平易な日本語」は多言語・多文化共生社会に貢献できる可能性を示唆するものという考えに私も同意する。

これまでの多言語化における言語選択の議論では、日本語を起点言語として異なる別の言語を目標言語として捉えた言語間翻訳が主であったが、同一個別での言い換え、つまり言語内翻訳²という視点を取り入れた点は興味深い。しかしながら、多言語・多文化共生社会における言語内翻訳の有用性に関する研究は実態的にも理論的にも未発達な段階にある。

そこで本発表では、言語内翻訳の有用性を言語習得および言語教育の知見を通して考察し、これまで発表された言語内翻訳の処理方略を整理し、日本語教育にも効果的な方略の検討を試みたい。

日本語教育からみた言語内翻訳の有用性

2.1 学習の動機づけとの関係

学習者の言語習得に関わる要因のひとつに学習の動機づけ³が挙げられる。学習の動機づけは言語習得要因の学習者に起因するものと位置づけられ、それはさらに認知的要因と情意的要因とに分類することができる。動機づけはこの情意的要因のうちのひとつに含まれる(中川2001a)。学習者要因において動機づけは認知的要因に含まれる言語適性に次いで言語習得に関係している点からも学習の動機づけを行うことは重要な点だと考えられる。

¹外国人住民全ての個別言語に対応した多言語化が必要かどうかという議論がある。自国の国言語が表記されていれば助かるという意見がある一方で、英語でも事が足りるという調査結果が出ている。(佐藤・布尾・山下2005)

²「言語内翻訳とは、すなわち言い換え rewording は、ことばの記号を同じ言語の他の記号で解釈することである。」ヤコブソンの定義による。

³ここでは学習者の学習に対するやる気や学習に臨む意欲的な姿勢を喚起・減退させるプロセスを意味する。

在住外国人にとって日本語を学ぶ動機とは何であろうか。成人在住外国人を対象にした中川(2001b)の研究から、学習の動機づけは第1に包括的動機づけ、第2に道具的動機づけの順に傾向が強いことがわかった。在住外国人が日本で生活している以上、生活の手段のために日本語を学習することは容易に推察できる。

しかしながら、(佐藤・布尾・山下 2005)の調査によれば、中長期滞在している外国人であってもふりがなのついていない日本語表示を「全然理解できない」と「あまり理解できない」を合わせると約62%に達し、一方で、ふりがながつけた場合に「理解できる」と「だいたい理解できる」合わせると約50%近くに達する。日本に滞在している外国人にとって、漢字が学習上の課題であることがわかる。日本語学習しても日常生活で活かすことができないと感じてしまえば、学習意欲を低下させる恐れがある。

日本語学習に配慮した言語内翻訳が必要である。在住外国人に理解可能なインプットとして日本語を変換できれば、まず、理解できる喜びを味わうことができる。また理解できれば、言語内翻訳された日本語から情報を集めようとし、日本語に接触する時間が増えることが予想される。そして、また理解することができれば日本語に自信を持つことができ、日本語学習への強い動機づけとなるのではないかと考える。

2.2 教材としての可能性

生活者としての外国人を対象にした日本語教育活動が自治体において広がりつつある。日本語ボランティアとして地域の住民が活動に参加し、インターアクションを通して互いの理解の構築が進むことが期待されている。この地域での日本語教育活動における課題の一つに在住外国人のニーズに適した教材が少ないという状況がある。在住外国人の有する背景は多様であり、教育機関用に整備された教材は残念ながら学習希望者の多様性に対応する汎用性を有するわけではないためである(松岡 2006)。また、金田(2008)によれば、生活に密着した、買い物、交通機関の利用、医療機関の利用などを取り上げる教科書は数多くあるが、地域社会での近隣の人々との主体的な関わりに注目した市販教材は、管見の限りでは存在しないのが現状である。

そこで、社会的リソースとして言語内翻訳された情報は生教材として適しているのではないかと考える。その理由は第1に、在住外国人は道具的手段として日本語を学習している傾向がある(中川2001b)ので、自らの生活に関連した情報がある生教材は在住外国人の教材に対する興味を引くだけでなく、教材としての汎用性に優れているからである。第2に、生教材を適切に取り入れていくことは、実践的な言語運用能力の養成を助けるだけでなく、学習の動機づけになる(小林1998, 102)からである。

在住外国人にとって日本語はコミュニケーションの手段としてだけでなく生活していくための手段でもある。岡崎(2008)はまず覚えてそれから使うというより、生活の中でしたいことする工夫の中で、使いながら言葉を獲得していくような日本語教育を重視しなければならないと指摘している。在住外国人を対象とした新たな日本教育に向けて、生教材という形で貢献し得る言語内翻訳の有用性について考察した。

3. 言語内翻訳の処理方略

「やさしい日本語」のとは日本語検定3級レベルの漢字2000語ほどに制限し、簡略化された文法を用いて表現された日本語である。この「やさしい日本語」への書き換え、すなわち言語内翻訳の方略はいったいどのようなものであろうか。本章では、まず先行研究で報告されている「やさし

い日本語」の原則を紹介する。次に日本語教育的観点から考察した言語内翻訳の有用性を処理方略に応用する試みを検討する。

「やさしい日本語」への方略として弘前大学人文社会学部研究室の「『やさしい日本語』を作成するためルール」を紹介する。弘前大学の研究室が提示するやさしい日本語の原則は計12ある。例えば、文構造を単純化し、1文を35文字以内にすること、まぎらわしい表現をさけること、キーワードを文頭に持ってくるなどがある。つまり、処理方略として結束性、明示性および簡潔性、を重視した原則と言える。

日本語教育的観点から処理方略を検討する際に最も配慮すべきは学習容易性であろう。漢字にふりがなをつけることをはじめ、日本語の概念として理解が難しい漢字を補足説明ことや情報の背景知識を明示することも有効な手段だと考えられる。

4. まとめ

言語内翻訳の有用性を日本語教育的観点から考察した。言語内翻訳が在住外国人の学習の動機づけにつながる点や言語内翻訳された情報が生教材として適していることを示した。言語内翻訳の処理方略に関しては、やさしい日本語の作成原則を少しだけではあるが紹介し、背景知識の補足説明を明示するといった日本語教育に有効だと考えられる処理方略についても検討した。

参考文献・資料

- 岡崎眸 (2008) 「日本語ボランティア活動を通じた民主主義の活性化 - 外国人と日本人双方の『自己実現』に向けて -」『日本語教育』138号 pp. 14-23
- 河原俊昭・野山広編著 (2008) 『外国人住民への言語サービス』明石書店
- 金 (2008) 「多言語情報の提供と流通」『多言語・多文化ブックレット』No. 4 東京外国語大学多言語・多文化センター pp. 1-15
- 金田智子 (2008) 「『生活者』に必要な日本語：目標基準の開発に向けて」国立国語研究所
<http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/nihongo_syllabus/seika/yoko_kaneda_080309.pdf>
- 倉八 順子 (1995) 「不安と第二言語習得」『明治大学人文科学研究紀要』第37冊 pp. 77-100
- 小林 (1998) 『よくわかる教授法』アルク
- 佐藤 誠子・布尾 勝一郎・山下 仁 (2006) 「大阪における多言語表示の実態 - 外国人へのアンケート調査、行政・鉄道へのインタビュー調査から」『21世紀COEプログラム『インターフェイスの人文学』2005年度報告書』pp. 105-146
- 中川まちこ (2001a) 「第二言語習得研究における動機づけの研究小史 - 社会心理学的視点を中心に -」『教育学研究』第三号 pp. 38-47
- 中川まちこ (2001b) 「第二言語としての日本語習得に関わる動機づけ：成人にみられる動機づけの傾向」『一橋大学留学生センター紀要』4号 pp. 95-120
- 松岡 洋子 (2006) 「実践型日本語学習支援者養成の試み - 岩手における実践分析と提言 -」『岩手大学生涯学習論集』第2号 pp. 15-21
- 弘前大学人文社会学部研究室 「『やさしい日本語』の作成ルール」
<<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/Default.htm>> (更新日 2008年10月9日更新)
- R. ヤコブソン 監修 川本茂雄 (1973) 「翻訳の言語学的側面について」『一般言語学』pp. 57-58
みすず書房

1938 年 東京モスク (東京回教寺院) 開堂式から見えるもの

大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程 1 年

依岡 宏子

1 はじめに

- ・ 1938 年 5 月、東京モスク開堂式におけるムスリムの周縁化
- ・ 本研究の目的：開堂式を中心となるはずのムスリムの不在が生じた原因を探り、当時の日本のイスラーム政策の一端を明らかにする

2 背景

A 日本におけるムスリムの動静¹

① ムスリム人口 (1938 年) …229 名

在住地域—兵庫 (104 名)、東京 (66 名)、愛知 (14 名)、大阪 (13 名)

国籍—無国籍旧ロシア人 (133 名)、英国籍インド人 (60 名)、トルコ人 (9 名)

職業—貿易相 (63 名)、洋服商 (42 名)、洋服業商^マ (26 名)、羅紗行商 (18 名)

② ムスリム関係諸団体 (1938 年 開堂式以前)

東京回教徒団 (1928 年結成)

団長 ムハンマド・ガブドルハイ・クルバンガリー (無国籍旧ロシア人)

イデル・ウラル・トルコ・タタール文化協会 神戸・東京・名古屋・九州支部 (1934 年結成)

名誉会長 アヤズ・イスハキー (トルコ国籍旧ロシア人)

神戸イスラム教会 (1934 年結成)

会長 J・B・フェローズーディーン² (英国籍インド人)

③ ムスリム関係諸団体の状況

クルバンガリー派とイスハキー派の対立³

・和泉橋倶楽部事件 (1934 年)⁴

クルバンガリーが、イスハキー派主催「イデル・ウラル・トルコ・タタール文化協会」結成のための集会 (駒沢大学教授 大久保幸次主催 トルコ民族歴史研究会講座) を、白系ロシア人を使って、襲撃・集会を紛糾させた

¹ 内務省警保局編 『極秘 外事警察概況 4 昭和 13 年』 龍溪書舎 1980 p90-91

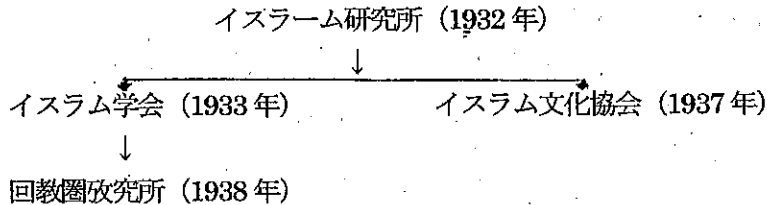
² フェローズーディーンは、神戸モスク (1935 年竣工) 設立の際に、66000 円の寄付をしている。これは全寄付金合計 118774 円の 2 分の 1 を超える額である。Kobe Muslim Mosque Committee “Kobe Muslim Mosque Report 1935-6” 1936 p18 参照

³ 前掲 内務省警保局編 『極秘 外事警察概況 1 昭和 10 年』 龍溪書舎 1980 p158-159
「要視察人関係雑纂/外国人ノ部 第七巻 16 土国人」

⁴ 「和泉橋倶楽部事件」は「日本における回教徒の最近の動き」として、『読売新聞』(1934 年 3 月 23 日～25 日の朝刊) で報告されている。「(クルバンガリー派の) 東京回教団の機関誌『ヤポン・モフビリー』の印刷を不可能にするために、イスハキー派が職工のストライキを煽動した」ことが、和泉橋倶楽部事件の発端であるとの解説が記されている。両派の対立が暴力事件にまで発展していることに対して、「かくて日本における回教徒の存在は何となく焦慮と不安と多分に渦巻いてゐる政治的雰囲気の中に生きてゐるのだ。」と締めくくっている。「和泉橋倶楽部事件」の詳細については、松長昭「アヤズ・イスハキーと極東のタタール人コミュニティ」池井優・坂本勉編『近代日本とトルコ世界』 勁草書房 1999 p219-263 を参照

- ・東京回教小学校（1930年創立）の名義変更についての民事訴訟⁵（1934年）
ムスリムの寄付により建設されたにも関わらず、彼の個人名義となっている回教小学校を、東京回教徒団の共有物として登記するように、イスハキー派が東京地方裁判所に民事訴訟を起こした

B イスラーム研究機関の分裂

3 「回教及猶太問題委員会」の発足⁶（1938年）構成員

委員長 外務次官・委員 外務省東亜局長、欧亜局長、亜米利加局長、調査部長、陸軍軍務局長、参謀本部第二部長、海軍軍務局長、軍令部第三部長

議事内容

4月2日 堀内謙介外務次官より梅津美治郎陸軍次官あての委員会設置の了承・委員任命の打診

内規 ①外務省・陸軍省・海軍省協同による回教及猶太問題の根本対策の検討
②秘密会議にすることを明記

4月23日 外務次官官邸にて第一回の委員会開催

決定事項①在日ムスリム（クルバンガリー派とイスハキー派）の統合
②日本側のイスラーム援助団体の一本化

5月9日 第二回の委員会開催

決定事項①在日ムスリム間の紛争の元凶であるクルバンガリーの国外退去

4 「回教及猶太問題委員会」の方針に沿って

A 在日ムスリムの統合

東京回教徒団団長 クルバンガリー 満洲へ（1938年）

東京回教徒団、イデル・ウラル・トルコ・タタール文化協会東京支部解散（1938年）



東京イスラム教団結成（1938年5月） 団長 アブデュルレシト・イブラヒム



大日本イスラム教団連合会（1938年6月）代表 アブデュルレシト・イブラヒム



イデル・ウラル・トルコ・タタール文化協会神戸本部・名古屋・九州支部

⁵ 「本邦ニ於ケル宗教及布教関係雑件/回教関係 第一巻 分割2」 外交資料館所収 レファレンスコード B04012533100 0118-0121 アジア歴史資料センターデータベース (<http://www.jacar.go.jp>)

⁶ 「回教及猶太問題委員会ニ関スル件」 外交資料館所収 レファレンスコード C0100166800 1641-1645 アジア歴史資料センターデータベース (<http://www.jacar.go.jp>)

⁷ 「本邦ニ於ケル宗教及布教関係雑件/回教関係 第二巻 分割3」 外交資料館所収 レファレンスコード B04012533600 0206 アジア歴史資料センターデータベース (<http://www.jacar.go.jp>)

B. 日本側のイスラーム援助団体の一本化

回教圏研究所 (1938 年 4 月) → 財団法人善隣協会⁸の傘下へ⁹ (1938 年 5 月)

イスラム文化協会 (1937 年) → 大日本回教協会 (1938 年 5 月)¹⁰

5 結び

- ・ムスリムが主役でない東京モスクの起工式…1938 年のイスラーム政策の具現化
- ・イスラームの教義面の理解や研究よりも、近い将来に起こるであろう世界大戦においての日本の防衛線としての「回教徒」・「回教圏」の設定¹¹

6 今後の課題

「回教及猶太問題委員会」について

7 参考文献・資料

池井優・坂本勉編 『近代日本とトルコ世界』 勁草書房 1999

回教圏研究所 『概観回教圏』 誠文堂新光社 1942

回教圏研究所 『回教圏』 第一巻第一号 1938

小村不二男 『日本イスラーム史』 日本イスラーム友好連盟 1988

善隣会編 『善隣協会史—内蒙古における文化活動』 日本モンゴル協会 1981

大亜細亜協会 『大亜細亜主義』 1938 年 6 月号

内務省警保局編 『極秘 外事警察概況 1 昭和 10 年』・『極秘 外事警察概況 4 昭和 13 年』 龍溪書舎 1980

『読売新聞』 (1934 年 3 月 23 日～25 日の朝刊)

外交資料館所収 アジア歴史資料センターデータベース (<http://www.jacar.go.jp>)

⁸ 善隣協会とは、駐蒙軍の指示の下、対蒙工作のための人材養成ならびに教育施設・病院等の建設を含んだ文化事業を行うために 1934 年に設立された機関であった。「善隣協会の沿革」善隣会編『善隣協会史—内蒙古における文化活動』 日本モンゴル協会 1981 p2-5

⁹ 回教圏研究所所長の久保幸次は、善隣協会との提携に対して、「純學術調査機関としての本研究所の面目を維持することを条件」とした。「研究所彙報」回教圏研究所『回教圏』 第一巻第一号 1938 P96

¹⁰ 大日本回教協会の結成を 1938 年 9 月としている論考もあるが、発会式 (東京九段軍人会館にて) の挙行が 9 月 19 日である。東京モスク開堂式で来日したイエーメン王子フセインが大日本回教協会主催の送別晩餐会 (5 月 23 日) の席上で行なった挨拶で、協会と代表者頭山満に対して礼を述べている。これより大日本回教協会は、5 月には組織の体制が整っていたと考えるのが妥当であろう。

前掲「本邦ニ於ケル宗教及布教関係雑件/回教関係第二巻分割 3」 0217-0218

¹¹ 例えば大亜細亜協会の機関誌『大亜細亜主義』 (1938 年 6 月号巻頭言より) には、以下の記述があり、時局の要請の内実が表れている。また来賓ムスリムについて述べた部分にも注意を払いたい。(下線発表者強調)「日章旗と月星旗の交叉、日本皇国と回教諸民族との堅き提携結合こそ大亜細亜主義の結論であり、明日の世界史の光栄を黙示するものである。…回教の古典的研究、回教民族との儀礼的和親もとより結構である。然しながら彼等の民族的熱情に共感し協力するの用意なくしては、百の回教寺院の建立も千の回教会議も、寧ろ意義無きに近い。況やこの西亜細亜諸国との提携は、単に彼等の民族的熱情に同情し協力する義勇の意味に於てのみならず、今や我が国策の内容としても喫緊に必要なをや。来るべき世界大戦に際しての我が国防の前線は、大陸的にも海洋的にも共に回教的地帯に置かれねばならぬ必然にある。過般の礼拝堂の落成に当たりても、英国あたりに気兼ねしての遠慮勝ちな歓迎振りが、遠来の珍客たちに、日本大に倚頼すべし感情よりは、寧ろ公誠の悲哀を感じしめたるにあらずやと憂ふるは、必ずしも杞憂にあらざるべしと信ずる。…支那事変の進捗と併行して、回教亜細亜に対する大膽果敢なる民族政策確立の急務を吾人は重ねて切言するものである。」

(付) 名古屋・神戸・東京モスク

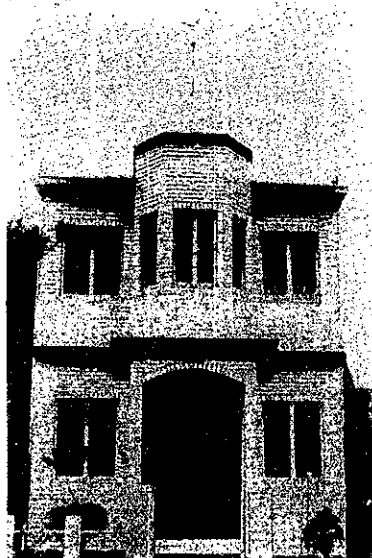
場所	設立年	登録人数	
名古屋	1931	50	木造モルタル2階建て。空襲により1945年5月焼失。無国籍旧ロシア人によって建立。
神戸	1935	400	鉄筋コンクリート3階建て。J・B・フェローズ・ディーン氏が多額の寄付、開扉者となる。英国籍インド人と無国籍旧ロシア人によって建立。
東京	1938	230	無国籍旧ロシア人と日本人の協力によって建立。頭山満が開扉者となる。

(小村不二男『日本イスラーム史』日本イスラーム友好連盟 1988 p295-304 より作成)

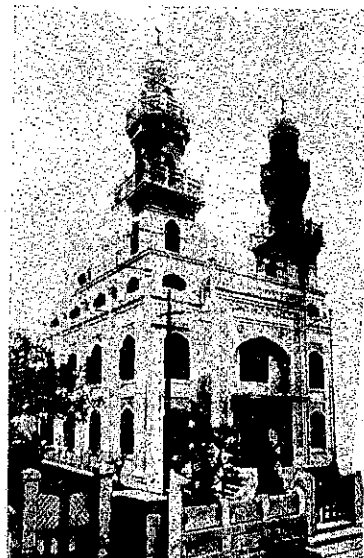
クスマ東京 →
町山大區谷澁京東



クスマ名古屋
草千市屋古名 ↓



クスマ神戸 ↓
通手山中市戸神



(回教圏研究所 『概観回教圏』 誠文堂新光社 1942 口絵写真 p17)

雑誌『民俗台湾』における台湾知識人の「共栄圏文化」

台湾・静宜大学 張 修慎

1、前言

植民地時代における民俗学と言えば、まず考えられるのは雑誌の『民族台湾』であろう。合計 43 号の『民俗台湾』は忠実に漢民族の民俗を記録したと言えよう。

1937 年から台湾では「皇民化運動」によって台湾人を同化しようとする台湾総督府の方針が、『民俗台湾』が単なる民俗的記録であれば如何に存在したか、非常に興味深い問題である。当時、台日両側に起きている、所謂「趣旨書をめぐる論争」に関する討論は今日まで、戦争期台湾知識人における「民族意識」に関する研究に良い参考資料になる。総じて、戦争中に発刊された『民俗台湾』で活動している台日両側の文化人たちは、如何なる心情で「台湾民俗」を記録しているか。1937 年台湾は「皇民化運動」などにより、宗主国の日本への「同化」が推進されてた最中でもあり、台湾知識人達のは如何なる「民俗」の概念で『民俗台湾』と関与したかを検討したい。

2、植民文化政治と帝国における「民俗学」の研究

(1) 帝国「民俗学」の設立と台湾

- ◎『古事記』『風土記』、「経験主義」「実証主義」、「富国強兵」「殖産興業」。
- ◎1884 年坂井正五郎を中心とする研究者は正式に「人類学会」を創立した。
- ◎台湾の「民俗学」:「未開」の現地住民→「文明化の使命」。一坂井の弟子鳥居竜蔵の原住民調査で「文明開化」という視点から「不幸な状態」で「憐憫に値する」。
- ◎1898 年以降、藤新平→「同化政策」から「台湾慣習研究会」、「臨時台湾旧慣調査会」。
- ◎1930 年末期に入ると、「皇民」=「日本臣民」=「日本化」との深刻な問題である。
→1931 年に満州事変の勃発、日本には「民族」という概念。1937 年「皇民化運動」を実施してから、「文明・同化」との基準で「浄化」による「内台一体」という国策。

(2) 日本民族精神の転換と日本「民俗学」

- ◎柳田の民俗学:農政論的視点からする日本農村の特質、伝統的な支配原理である農本主義。結局、柳田の民間伝承と繋がる、「郷土研究」(国家村社)を統一する中心的な思考は、柳田民俗学の中にもっとも批判される日本民族(national)独特な意識。
- ◎1920 年代になると、日本の地政学内「大和民族」以外の異民族の存在を認める。
- ◎さらに、1930 年代から「民族」という概念も大きな意味を持つようになった。

【引用 1】「日本民族学会設立趣意書」『民族学研究』第 1 巻第 1 号 1935 年 3 月。

(中略)民族学を文化人類学とみるにしても、原始文化学と解するにしても、これを体質人類学や人種学と区別して考へる時、それは人類文化の発生発展の総合的研究である。(中略)..加ふるに、輓近世界諸国に漲る澎湃たる民族主義的気運は民族そのもの、再認識を改めて要求してきた。しかるに民族の成立と特異性とは歴史的範疇に属すると同時に社会的範疇のものである。あらゆる文化、あらゆる生活は所謂民族思惟を基調としてその上に成立してゐるのである。従つて我々自身の社会生活及びその本質を理解するためには民族学の理解を不可欠の条件とする。..我国の民族研究はこれまで多く民俗学の名に於て、主として郷土研究の方向に発展せしめられ、日本残存文化の採取と解説とに貢献するところ

多大なるものがあつた。しかし更にこれを総合大成して、余他の民族文化との特徴を比較し、相互の系統関係を明かにして、文化の発生から接触伝播の理法を考究することは、海外に於ける民俗学の伸展からも当然に要求されてゐる。(中略)

- ◎1941年以後、「共同体としての民族・種族の統体的研究」。1942年に民族協会の趣旨書は「学術的組織の下に民族学的素養ある学徒と提携連絡して、主として大東亜共栄圏内の諸民族に関し実証的な民俗学的研究調査を行ひ、他面深く民族学的理論を探究して我家の民族政策に寄与せんことを期す」。

3、戦争時期の『民俗台湾』と台湾知識人

(1)「皇民化」思想における『民俗台湾』

- ◎台北帝大医学部教授の金関丈夫と総督府情報部の池田敏雄、学者の中村哲、岡田謙などなどのほかに、台湾知識人の執筆も見かけられる。例えば、金関と「趣旨書をめぐる論争」を行つた楊雲萍とその連名者としての黄得時も挙げられる。

- ◎先ず金関の「『民俗台湾』発刊に際して」(第1巻第2.3号)趣旨書から。【引用2】

台湾本島人の皇民化は是非とも促進せしめなければならない。近時のその万策が強力に施行せられようとしてゐる事は、従来の無策無為に比して、甚だ心強いこと、言はなければならない。その為には本島旧来の陋習弊風が速かに打破せられて、島民が近代文化も恩恵をより多く享受することの出来るやうになること甚だ歓迎すべきであると同時に、一面に於て、さまで弊害のない習慣がその犠牲となって煙滅すると言ふこともまた自然の成ゆきであつて、致し方のないことである。また急激なる人為的万策によらずとも、之れは永年の間に自然に煙滅すべき運命を担つてゐるものである。

前し、既に記載及び研究の能力ある文明国民には、有らゆる現象を記録し、研究すべき義務がある。陋習は陋習、弊風は弊風として、之れを記録にと、め、研究することは、わが国民に課せられた義務であるのみならず、現在わが国民が南方に国力を伸展しようと言ふに当つては、その舞台の南支たと南洋たとを問わず、最も提携の機会と必要性の多いものは支那民族である。(中略)

(中略)われわれは台湾旧慣の煙滅を惜しむのではない。しかし、これを記録し研究することが、われわれのつつての義務であり、且つ、単に現下の情勢のみを考へても、甚だ急務であると言ふことを、強調したいのである。(中略)

- ◎理由は日本「文明国民」の義務である。「同化政策」を実施下、日本が大陸政策を進めている途中に、台湾に与える「日華提携」の使命であり、日本アジア主義理念。

- ◎楊雲萍が金関の言論への批判：主に「台湾旧慣の煙滅を惜しむのではない」という先の言葉に台湾の旧慣に対する蔑視な態度であつた。【引用3】

事物を研究するには、冷静に、客観的に、科学的に其の真を追求すべきであると言ふまでもない。然し此のことは決して冷たい高飛車な態度や機械的な方法を意味するのではない。否、むしろ我々は偉大な学者の中にこそ愛と謙遜を感じ humanityを見出すのである。

あまりにも閑却され、冷視されて来た「台湾の研究」が、昨今漸く新機運に向ひ

つつあるは、自分などのひそかに祝ひとする所である。例へば「文学」に就いて「民俗」に就いて。…(中略)「白話文」も「台湾語」も知らざるのに「白話文」の作品が、「多くは模倣的な」ものだと断じたり、或ひはこれから「台湾旧慣」を研究しようとして居るに、もう其の「煙滅を惜しむのではない」と言つて居るのである。

短文忽々、意をつくし得ないが、願はくば、之等「学者」や「研究家」諸氏が、今少しく暖き理解と愛と、そして謙遜とを持たれん事を。1941年8.9月号

- ◎「皇民化」＝「近代化」との基本意識である。金関が台湾の民俗について理解すべきと考える最大の理由は日本南進政策によって地政学に方便なる条件であろう。
- ◎もしも「皇民化」＝「近代化」という命題が成立すれば、「近代化」の問題には日本文化とも含まれている。1930年代日本で噴出された「日本文化の回帰」思潮も、明治西洋化以来日本文化が自己なりの反省であり、西洋文化に対する反動でもある。
- ◎編輯後記に「幸本誌の反響は意外に大きく、島内各地はもとより、遠く内地、満州国、中華民国からの申込もあり、編集部では感激してゐる。殊に多数本島人各位の参加を得たことは、本誌の使命からみても、まことに喜ばしいごとである。」
- ◎「あくまでも無限定にとどめたところに、わが大和民族本来の天真の大きいさがある。真に「日本的性格」をもつた宗教対策は、かかる自覚の上にのみ樹立得るであらう。」
- ◎1942年7月5日発行した13号の巻頭語には「我々が現に大戦争のさなかに在るといふ事実を大前提として考へるとき他のあらゆる研究についても同じことが云へるが、殊に民族の風習、習慣に関する研究に対しては、それが現前の民族政策の実践に資するやうなものであるが、至上命令として要請されていると断じ得る。(中略)大東亜戦は、資源戦争なる以上に民族政策戦である。民族学的研究の要今日より大きいなるはない。」との記事もある。
- ◎「民族を誤りなく導き百年の計を成すには民俗に通曉する事がその根幹となるべきである。更に廣く善隣を理解し、南方諸民族をも包容して一大共栄圏民族郡を成立せしむるには、民族研究者の責務大なりというべく、真の意味に於て寧ろ時代の先端を行くものと称すべきである。」とその方向が明白に読み取れる。
- ◎1943年12月「大東亜民族学と『民俗台湾』の使命」の一文に、「日本の民俗学或いは東亜の民俗学のために、台湾からはかういふ研究を期待している」との明言。
- (2) 台湾知識人における「民俗」の意味
- ◎1937年以後から「挙国一致、尽忠報国」というスローガンに。
- ◎「皇民化運動」：「新聞の漢文欄の禁止、日本語の使用の推進、寺や廟の偶像の廃止、神社参拝の強制、台湾の慣習による儀式の禁止」。1941年『台湾保甲皇民化讀本』における内容を読むと、『民俗台湾』に現れ、「老娼撲滅論」「媳婦仔螺」「童養媳」など戦時下台湾における封建弊習や生活習慣などに対する批判的な描写と一致。
- ◎その旧慣に関する内容も「皇民化運動」の表した台湾民俗に対する批判とほぼ重なっている。台湾人が中国との因縁をすっかり絶って、「立派な」日本人となる手段。
- ◎「現代化」の洗礼を受けた1940年代の台湾知識人に対して、台湾封建社会から残された「陋習弊風」は実に急迫な使命になるだろう。

- ◎「日本近代化」の問題には、1930年代に「日本文化の回帰」の思潮から1940年代「近代の超克」思想などの噴出は思想の一貫性を読みとることができる。およそ、その根底に日本伝統の「国体」思想が潜んでいると考えられる。
- ◎近衛新体制の政策の指導役に「昭和研究会」と「大政翼賛会」がある。その中の「文化政策要綱」：文化人に対する「思想対策」である「国体観念の明徴」と「国民協同生活の体験を通じて徹底させる」という意識がかなり強い。「大政翼賛会」の強調は「郷土の伝統と地方の特殊性などの強調」と「地方農村の特徴たる社会的集団間系の緊密性や郷土愛と公共精神とを高揚する」など地方文化の振興。
- ◎趣旨書が「実務と実用性を強調」した思惟のは、日本と関わる政治現状の問題にはほかならない。その中にも、1940年代台湾知識人が非難される「戦争協力」有無の疑問には、知識人自身が追求する「近代化」の要素もこもらせているはずである。したがって、植民地台湾と帝国が文化共同する部分は中国伝統の一部分である。むしろ、それは1937年「皇民化運動」が開始してから雑誌『民俗台湾』が発行に許す主な理由。ただ、矛盾なるのは台湾の旧慣は必ずしも陋習ではあり得ない。しかし、犠牲しても平気なる理由は帝国が南進する必要がある。恐らく、帝国日本が台湾に対して理解しないといけな根拠に、大東亜統一との目標と繋がっていく。
- ◎台湾知識人の本音には「近代化」を追いかけ求めるロジックが含んでいる。さらに、台湾知識人が求める近代思想は「皇民化」に隠れている「近代文明」の意義と再び積上げている。伝統文化にある陋習旧慣を犠牲することは植民地台湾の脱中国化の証拠であり、「大東亜共栄圏」のスローガンを唱える日本には喜ばれることになる。
- ◎同年代に台日知識階級の交流と似たような思想の背後に潜伏している歴史的な意義を解明する必要がある。南方民族における民俗に関する描写は、確かに帝国日本の植民地統治に好都合の条件になる。

4、結論

いくら「民俗統治論」から看取されねばならないのは、「大東亜共栄圏」構想のもと、民族学者の「民族研究」が支えようとした戦時下日本の民族政策に孕まれる根本的曖昧にほかならない。それは、1940年代前半から各地で実施された日本民族学者の民俗調査について考えるには、どうしても念頭になるのは、「大東亜共栄圏」は、従来の植民地とは比較してはならない数の民族を内包する地理的空間である。1941年「皇民化運動」が推進する気運の中で創刊された『民俗台湾』も、結局、「大東亜共栄圏」の枠組みの中に日本民族へ文明化＝「同化」させる時期に巻き込まれた。

しかしながら、戦時下における『民俗台湾』は如何なる素質を持っていたとしても、統治者側からの視点で台湾人の理解には繋がらなかった。が、現時点にも沢山の文化遺産が目の前に展開されているも事実である。ここでは、台湾知識人による「民俗」的自己認識の試みや民俗学と政治との関係について、紙数の関係上部分的言及するのみに止まっている。戦後となった現在、我々が「大東亜共栄圏」という言葉を再考するとき、各国の文化共生と民族尊重との理念を通して見れば、恐らくアジア各民族の将来像もはっきりと予測展望の資料となり得るのではなかろうか。

「鳳子」から見る沈從文の世界観

大阪大学言語文化研究科博士前期課程1年

滝本 理博

1. 本発表のねらい

沈從文(1902~1988)は現代中国を代表する作家の一人である。彼は自分の故郷湘西を舞台とした作品を多く残しており、代表作「辺城」(1934)も彼の故郷が舞台である。この湘西とは、北京や上海といった大都市とは異なり、前近代的な文化が多く残る地区である。本発表では湘西を舞台とした作品の中で、あまり研究対象として取り上げられていない作品「鳳子」についてみていきたい。「旧文化」あるいは「科学」といった表現の多いこの作品から、沈從文の世界観を読み取るのが目的である。

2. 「鳳子」について

この作品は沈從文が青島大学で教鞭を執っている時に書かれた。第1章から第9章までが1932年4月30日、6月30日に『文芸月刊』第3巻4号、第5・6号合刊に発表され、1933年7月に杭州蒼山書店より『鳳子』というタイトルで単行本として出版された。1934年に北平立達書局で再版されたときに「題記」を追加した。1937年7月『文学雑誌』に第10章にあたる「神之再現—鳳子第十」を追加した。また、1946年には第10章のみ「橙麗」というタイトルで『春秋』第3巻第2期、『時与潮文芸』第5巻第4期に掲載された。『春秋』に掲載されたものは結末が「目覚めたら夢だった」というもの書き換えられている。

作品はその内容から2つに分けることができる。前半部は湘西出身の青年が失恋から北京を去り、青島へ行く。ある秋の夕暮れに浜辺で中年男性と鳳子という女性のやりとりを盗み聞く。その後その紳士と知り合い校友を深める。前半部はその紳士が若い頃湘西に滞在したときの思い出話を語り始めるところで終わる。

後半部は、紳士が若い頃に鉱山の調査で湘西に行ったところから始まっている。その時期は1911年の辛亥革命で清朝が崩壊した後の中華民国成立間もないころであると推測できる。紳士は湘西の有力者の男性と共に湘西と都会との違いについて話をする。彼らの話の中では科学中心の「新しい文化」とそれ以前の「古い文化」との対比、「都市」と「農村」という対比が多く語られる。そして、紳士は湘西の歌による求愛、祭りなどの文化を見て、最終的に湘西の「古い文化」の価値の優位性を認めるに至る。

3. 作品の評価について

日本においては城谷武男氏が「阿黒小史」論(1997年)の中で「鳳子」について「木に竹を接ぐような展開」と評しているのみである。中国の研究者王保生氏は、この作品は「すばらしい作品だとは言えない」(王:p.136,1994)と評している。それは最後の場面で紳士が湘西を代表とする旧文化の世界を認めたからで、それはすなわち湘西地区の野蛮さや、立ち遅れた文化までを肯定したことであり、現実社会にいる読者としては矛盾を感じえないからだという。報告者は城谷氏の「木に竹を接ぐような展開」という論には同意するが、王氏の主張する「旧文化の全面的肯定」には疑問を感じるものである。

4. 青島と沈從文

「鳳子」は都会から青島へ行った青年の話である。沈從文は、作中の青年と同様の経緯で1931年より2年間青島に滞在した。このことについては、王保生氏による以下の指摘がある。

沈从文的一篇小说《佚之先生传》，可以看作是他青岛教学和写作生活的自况，从中我们可以看到他

当時废寝忘餐の写作情况。他原本是乡下人，可是命运却鬼使神差地使他成天不是伏案写作，就是站在教室里讲课，在周围一群知识阶级人中间，没有一个像他那么出身的，他内心感到自己的孤立，有时候还会产生一种自嘲，认为自己是“很错误活到现在地位上。”（王：p.134 1.19～p.135 1.4, 1994）沈從文の「俛之先生伝」（引用者注.1932年）は、彼が青島における教育と創作を自分で描いたものとみなすことが出来る。その中からは、彼が当時睡眠と食事さえ惜しんで創作に没頭する状況を見いだすことが出来る。彼は元々郷下人（引用者注.田舎の人間）であるが、運命は彼が一心不乱に机に向かって創作することを許さず、教室で授業をさせた。周囲の知識階級の人々の中に、彼のような出身の人間はおらず、彼は内心自身の孤立を感じ、時には自分は「間違ってここまで来てしまった」という自嘲の気持ちさえ生まれることがあった。

この作品を読んでみると、沈從文自身の事が書かれているという印象が強い。また、「鳳子」にも沈從文自身の自画像が見いだされる。そこで、「鳳子」の青年、「俛之先生」の先生、沈從文自身の共通点を表にすると以下ようになる。

人物と条件	青島の大学宿舎で生活	教員である	郷下人（田舎の人間）
沈從文	○	○	○
鳳子の青年	○	明示されず	○
俛之先生	○	○	○

他にも、「鳳子」の青年は田舎出身で「特殊なところ」があるために都会の生活について行けなかったと描かれているが、沈從文自身もそのような面を持っていた。それは彼が青島に来る前上海にいたときに書いた「虎雛」（1931年）から読み取ることができる。湘西出身の少年兵が都市で一人前の人物として生きていくのに失敗するは暗視である。沈從文自身も湘西にいたとき少年兵であった。またその小説の最後の場面で主人公は「自分は都会の人間より少し荒削りに出来ている。」と言った。この作品も「俛之先生伝」のように作者自身が投影されていたのだとすれば、沈從文は自分の育ってきた環境と都会での生活の間に違和感を持っていたことが考えられる。そのような土台があったからこそ、「鳳子」のように都会と田舎、「新しい文化」と「古い文化」の価値観の対立について扱う作品が登場したのだと考えられる。

5. 後半部の世界観と沈從文

5-1 湘西から見た都会の近代化について

「鳳子」では、都会の人間に湘西での生活を体験させるという設定によって、都市対湘西という構図に対して疑問を提示している。第7章では都会の紳士と湘西の有力者との会話において、有力者から都会の近代化について以下のような指摘がされている。

中国は信神的，少数受了点科学富国强种教育的人，从国外回来，在能够应用科学以前，先来否认神的统治，且以为改变组织即可以改变信仰，社会因此在分解，发生不断的冲突，这种冲突，恐怕将给我们三十年的教训，这预言我大胆的同你谈到，我们可以看看此后是什么样子。

（引用は『沈从文全集』第7巻小説 p.125 1.1～6 北岳文艺出版社 2002）

中国とは神を信じる所だ。少しばかりの科学と富国强兵のための学問を学んできた少数の人間が、外国から戻ってきて、十分に科学を応用できる前に、まず神の統治を否定してしまった。彼らは組織を改編することで信仰を改変することができると思っていた。だから社会はそれによって分解してしまった。不断の衝突が起き、この種の衝突は、おそらく我々に30年の教訓を与えてくれるだろう。この予言は大胆にもあなたに話したもので、我々はこの後どうなるのか見てみよう。

ここから、沈從文が都会の文化に対して疑問を呈していることが読み取れるだろう。沈從文は湘西と都会の両方の世界を知っている。すべてが科学の価値観の下に進んでいく都市の文化に納得がいかなかったのかもしれない。よって、その違和感を、「神の統治」を否定したからだという言葉で表現している。神を広く「自然」ととらえるならば、科学は自然を征服するものだという考えに反対しているのである。

5-2 作品内における旧文化の受容

最後の第10章では、青年が湘西の文化を認めている。それは「神」の概念がこの世にまだ必要だと理解することであった。ここで注目しておきたいのは、第10章の創作時期である。第1-9章までは1932年に書かれ、第10章は1937年である。この間には沈從文の代表作「辺城」(1934年)が書かれている。その「辺城」創作と「鳳子」における第10章の加筆には関係があると考えられる。「辺城」の「題記」(1934年)には沈從文が1934年1月に故郷湘西に帰り、それが戦乱によってかつての様子とは全く異なった様子となってしまったことへの悲憤がつづられている。それは「鳳子」第7章に書かれていた社会混乱、断絶の予測が現実の湘西にやってきたことであった。そこで、第10章のように都会の人間が湘西のような旧社会の文化の価値を認める章を書いたのではないだろうか。以下は青年がそれを受け入れる箇所である。

你前天和我说神在你们这里是不可少的，我不无惑疑，现在可明白了。我自以为是个新人，一个尊重理性反抗迷信的人，平时讨恶和尚，轻视庙宇，把这两件东西外加上一群到庙宇对偶像许愿的角色，总拢来以为简直是一出恶劣不堪的戏文。在哲学观念上，我认为神之一字在人生方面虽有它的意义，但它已成历史的，已给都市文明弄下流，不必需存在，不能够存在了。

(引用は『沈从文全集』第7巻小説 p.163 L14~19 北岳文艺出版社 2002)

「あなたは一昨日私に神は自分たちの所では欠かすことができないと言いました。私はそれを疑わないわけでは無いけれども、今は分かりました。私は自分を新しい人間だと思い、理性を尊重し迷信に反抗する人間だと思っていました。普段は僧侶を嫌い寺社を軽視し、この二つ以外に加えて願をかけるものを、ずっと粗悪でひどい戯れ言だと思っていました。哲学の概念上では、私は“神”の一字は人生方面にまだ意義があると思います。しかしこれはもう歴史となってしまう、都市文明によってレベルの低いものだとなされ、存在する必要が無くなり、存在できなくなりました。」

そしてその後で、その言葉に対して有力者は“哲学之再造，引导人类概念转移。”が必要だと述べている。呉立昌氏と賀興安氏は、沈從文のそのような「神」の概念の主張を「汎神論」だと言っている。(呉p.44.1991)(賀p.136.1991) また、呉氏は沈從文の言う「神」とは特定の宗教の神ではなく、自然そのものだ(呉p.45.1991)と指摘している。

しかしその旧文化の肯定＝昔の生活に戻れということだろうか。呉立昌氏は以下のように指摘している。

概而言之，沈从文的“返朴归真”倒并非真的要物质生活上退化到茹毛饮血的原始社会，他反对的只是由现代物质文明社会带来的人性的堕落和衰微。现代社会既戕杀了过去时代保持的素朴人性美，他才向往着返朴归真，但又知回到过去不可能，所以信仰未来，希望未来能够“复归”已经失去和“异化”了的人性。他的理想一言一蔽之，既要有现代物质文明的进步，又要在精神道德方面，保持着过去存在过的素朴人性美。沈从文是有勇气和信心去为自己的理想实现而奋斗，但是此路不通，因为它违背历史发展的规律。

(呉 p.57 L14-58 L3 1991)

言ってみれば、沈從文の「素朴に帰って真に戻れ」は決して物質文明上退化して、生肉を食べて血

を飲むような原始社会に戻るのではなく、彼はただ現代の物質社会がもたらした人間性の墮落と衰退に反対しただけである。現代社会は過去の時代が持っていた人間性の美しさを傷つけてしまったので、彼は「素朴に帰って真に戻れ」を提案したのだ。しかし昔に戻ることは不可能なので、未来を信仰し、未来が既に失われてしまつて「異化」された人間性を「取り戻して」もらいたかったのだ。彼の理想は一言で言うと、現代物質文明の進歩があつてほしいだけでなく、また精神道徳的な面において、過去にあった素朴な人間性の美を持ち続けてほしいと思った。沈從文は勇気と信念をもって自分の理想が実現するように奮闘したが、それは通じなかった。それは歴史の発展の法に反していたからであつた。

作品中で紳士は「神」の概念は今も必要だといったが、それは昔に戻ることはない。よつて、沈從文が「旧文化すべてを肯定した」と断定することはできないであろう。結果として失敗に終わったものの、過去の湘西の持っていた精神性の中にある美の復活を望んだのであろう。

6. まとめ

「鳳子」から、沈從文が物質的發展一辺倒の近代社会に疑問を持っていたことが読み取れる。その上で、湘西の旧文化の「神」の概念（自然の美、あるいは素朴な人間性の美）の必要性を提示しようとしたと言える。当時の読者にこのような沈從文の価値観はそのまま受け入れられたとは思わない。沈從文の理想世界は1934年の「辺城」によつて改めて提示されることとなる。

参考文献

1. 吳立昌 『沈從文—建築人性神廟』 復旦大学出版社 1991
2. 賀興安 『楚天鳳凰不死鳥 沈從文評論』 成都出版社 1991
3. 王保生 『沈從文評伝』 重慶出版社 1995
4. 『文藝月刊』 第3巻第4期、第56期合刊 「鳳子」沈從文 中國文藝社 1932
5. 『文学雑誌』 第1巻第3期 「神之再現—鳳子第十」沈從文 北京商務印書館 1937
6. 『春秋』 第3巻第2期 「橙魔」沈從文 春秋雑誌社 1947
7. 『北海学園大学学園論集』 第88号 「仮説「阿黒小史」論」 城谷武男
北海学園大学学術研究会 1996

日本語引用テキスト再考
 - 2つの間接引用テキスト -
 上田恭寿

1. 「思考と発話の原理」と3つの引用

テキストに思考と発話の2要素を認め、「テキストは発話による思考の表出」という原理を立てて（「思考と発話の原理」）、テキストの思考主体と発話主体に注目して、「元の発話者」（被伝達者）と「伝達者」の組み合わせを考える→ 理論上、次の4通り、このうち、元の発話者が伝達者の思考を発話表出するbは実質的に考えられない→ a、c、dの3通りの組み合わせ（3タイプの引用）

		思考主体	
		伝達者	元の発話者
発話主体	伝達者	a	c
	元の発話者	(b)	d

→①3タイプの引用の受容面上の差（特にaとc）の検証と引用テキストの受容機構の考察

②dタイプが従来の直接引用に相当、従来の間接引用がaとcの2タイプに分類されることの確認

2. 人称と3つの引用

1) 「太郎は、今回は、太郎が間違っていると言った」では、太郎の元の発話内容を伝達者の立場で咀嚼した思考が、伝達者の発話で表出（aタイプ）。「太郎が」が「自分が」のとき、「自分」は伝達者を指さず、太郎の立場で捉えた「自分」（太郎の思考）とするのが一般的な解釈。そのとき、発話に太郎（dタイプ）と伝達者（cタイプ）の可能性はあるが、後者とする方が一般的であろう¹。

2) また、「太郎が」を「彼が」に替えると、次の4通りの可能性。

「彼」が「太郎」		aタイプ
「彼」が「太郎」以外（次郎）	太郎が発話（太郎の思考）	dタイプ
	伝達者が発話	太郎の思考 ... cタイプ（1）
		伝達者の思考 ... aタイプ（2）

◇cタイプ（1）は太郎の立場での主張が発露、下の方のaタイプ（2）は伝達者の立場からの思考が表出

3. インタビュー記事における3つの引用の受容

3. 1 3つの引用テキストの現出様態

次は北原亜以子の近著、『父の戦地』について、本人に対して行ったインタビュー記事テキスト（平成20年9月7日付け『奈良新聞』、「著者に聞く 書き残さねばの思いで」）。

1) ヨシエちゃん、ゲンキデスカー第二次大戦中、ビルマ（現ミャンマー）に派遣された父から毎週のようにはがきが届いた。カタカナばかりの文章にほのぼのとしたイラスト。三歳で父と別れた少女へのはがきは、七十七枚にのぼった。

2) そのうちの約四十枚を紹介し、自身の戦争体験をつづった。本名は高野美枝。「戦争を知らない方に徐々にでも戦争のむごさが伝われば」と願ってのことだ。

3) 父の描く絵は、戦地にいるとは思えないほどユーモラスで遊び心たっぷり。兵隊たちが指人形で遊んでいたり、現地のお祭りを紹介したり、娘を楽しませようという気持ちで満ちていた。

4) 「後方部隊だったので割とのんびりしていたのでしょう。絵の中の人間が軍服を着ていなかったら旅先からのはがきみたい。自分が楽しんでいたのではないかしら」

¹ 廣瀬（1989）は「自分」を「私的自己」と呼び、「自分」は元の発話者を指示するとする。

5)だが、そんな父も終戦の年に戦死。自身も空襲を経験し、戦争の悲惨さを目の当たりにした。以後、戦争と名のつくものは映画も漫画も遠ざけてきた。時代小説作家となつてからも戦争を書くことはなかった。

6)「でも、自分も年をとった。私は物書きですし、書き残しておかねばという気持ちが強くなりました。父のように、戦場じゃないような暮らしをしていた人まで死んでしまうのが戦争なのだと」

7)執筆にあたり、クッキーの空き缶に保管していたはがきを読み返した。帰ってきたかっただろうにと、涙がこぼれた。

インタビュー記事には、明示されなくとも「とインタビューされた人物は言った」が潜在するテキスト(引用)が認められ得る。その見地から各テキストを検証。

1) 1)と2)は、地の文、及び、dタイプとその主文(「と書いた」の潜在性は低い)。3)は、引用(「と書いた」の潜在)の匂いはするが、「願つてのことだ」を承けて、地の文の様相が続く。4)と6)はdタイプ。5)は、引用(「と書いた」の潜在)か読者に断定する地の文かは微妙だが、前の引用部分を承けている点と、後半の情報がインタビューで得た様相が高い点とから、3)よりも引用の様相が高い。6)へのつながり方も引用を示唆。7)は、北原の発話以外からの情報ではなく、また、その情報内容は記者が読者に対して断定しているというよりも、北原の思いがそのまま吐露されているようで、「と書いた」が潜在している(引用)様相が高い。

⇒ 4)と6) (dタイプ) は引用、5)と7) (特に7)) が引用の様相が高い

2) 5)と7)を引用とすると、どのタイプか。それらの発話主体は、かぎかつこがない点からも、また、丁寧体がない口調から見ても記者(aタイプかcタイプ)。7)の後の方の文は、「悲しかった」と同様、「涙がこぼれた」という北原自身の思い(主観)がそのまま直に発露した一種の主観表現。補うべき主語は、記者がその主観を咀嚼した「北原は(彼女は)」よりも、北原の思考による「自分」の方がふさわしい(cタイプ)。一方、5)は、これを北原の発話の引用とすると「と書いた」を補うとき、北原の思考そのままの表出(cタイプ)か、記者が北原の思考を自身の立場で咀嚼して、自身の思考で説明したものか(aタイプ)、後者の様相が高いようだが、微妙(不確定)。「自分」と「北原(彼女)」の両方を補うことが可能。

⇒ イ) cタイプの程度は、7)>5)

ロ) 主観表現以外にもbタイプが認められ得る(同定は文脈に依存)

3. 2 3つの引用の受容上の差

1) cタイプが特徴的な7)は、読者に、直に北原の内面に接する印象を強く与える。7)に比べaタイプの様相が高い5)は、北原の内面に対して、より間接的であり、距離は遠い。ところが、5)も試しに、cタイプ(北原の思考が発露)と限って読み直すと、北原の内面との距離は近くなる印象が与えられ、逆にaタイプ(記者の思考)と限って読み直すと、さらに距離が遠くなる印象が与えられる。

→ 受容上、cタイプの方がaタイプより北原の内面への距離が近い効果(表面的には捉えにくいaタイプとcタイプが受容面に現出)

2) dタイプはaタイプやcタイプと比べ、むしろ、置かれた北原の発話を客体視する効果を与える。

3. 3 3つの引用の受容の考察—ディスコースレベルの階層性の見地から—

1) インタビュー記事におけるディスコースレベルの階層構造

Leech & Short (2003, 第5章) によるディスコースの「4つの要素(発信者、受信者、伝達情報、状況)」と「小説におけるディスコースレベルの階層構造」の議論を記事テキストに適用すると、次の「インタビュー記事におけるディスコースレベルの階層構造」を得る。

レベル	状況	発信者	伝達情報	受信者	引用タイプ
レベル(1)	新聞記事	記者	記者の思考	読者	a、c
レベル(2)	インタビュー	北原	北原の思考	記者	d

◇上位のレベル(1)は、下位のレベル(2)を関知し操作できるが、下位は上位を関知しない。

◇記事の読者は、(1)のレベルで発信者たる記者の受信者。

2) テキストタイプのディスコースレベルと4要素

	レベル	発信者	受信者	伝達情報	状況
地の文と引用の主文	(1)	記者	読者	記者の思考	新聞記事
dタイプ	(2)	北原	記者	北原の思考	インタビュー
aタイプ	(1)	記者	—	記者の咀嚼思考	新聞記事
cタイプ	(1)	記者	—	北原の思考	新聞記事

◇dタイプは(2)のレベルで記者に向けて発信されているが、(1)のレベルで、潜在する主文(「と北原は言った」)に従属しているaタイプとcタイプは、主文(「と言った」)が潜在する限り、それ自体では、読者へ働きかけて発信されてはいない(受信者が不在)²。aとcの差は「伝達情報」³。

3) ディスコースレベルの見地からの北原の内面に対する3タイプの引用の受容の差の考察

どうして北原の内面に対する受容(距離)差が出てくるか。ディスコースレベルの見地からの考察。

dタイプ: (1)のレベルで、レベルを隔てて、(2)のレベルの北原の思考に接する

aタイプ: (1)のレベルで、記者の思考を通して、間接的に北原の思考に接する

cタイプ: (1)のレベルで、記者の発話を裏媒体に直接的に北原の思考に接する

⇒ ディスコースレベルの階層性の見地による、3つの引用の受容面上の効果の差の裏付け

4. 従来の話法との対照—日本語テキストにおける2つの間接引用—

1) 藤田(2000, 2001)は、直接話法と間接話法の区別は「伝達のムード」のあるなしであり、「伝達のムード」とは「発話者の、今ここで言葉を発しているという表現姿勢」という現場性であると指摘し、また、鎌田(2000)は、「直接話法とは存在するであろう元発話をきっかけとして伝達者が伝達上の表現意図を独立した発話らしい発話として表現することであり」(64)、「間接引用とは伝達の場合において新たな(元)発話の場の成立を極力抑え、そして、また、新たな(元)発話を極力地の文に吸収させて引用を行う言語行為である」(94)と指摘するが、「現場性」の有無や、「独立した発話らしい発話」と「極力地の文に吸収させて引用を行う言語行為」を、上の3. 3のと2)の表と見比べると、直接引用が(2)のディスコースレベルのdタイプに相当し、間接引用は(1)のディスコースレベルで、潜在する主文に従属して、聞き手に向けて発信されていない、aタイプとcタイプに相当する。

2) 廣瀬(1989)の「公的表現」と「私的表現」による規定

a) 直接話法とは「公的表現」の引用であり、間接話法とは「私的表現」の引用である。

b) 公的表現とは言語の伝達機能に対応する言語表現のレベルであり、一方、私的表現とは言語の(伝達を目的としない)思考表現機能に対応する言語表現のレベルである。

1)と同様に、dタイプが「公的表現」(直接引用)に、また、aタイプとcタイプが「私的表現」に相当することは明らか。「私的表現」に対応する「思考表現機能」の主体に、廣瀬は触れていないが、元の発話者(cタイプ)と伝達者(aタイプ)の2候補があるわけである。

⇒ 従来の直接引用に相当するaタイプをそのまま「直接引用」、2つの間接引用、cタイプの方を「描出引用」、aタイプの方を「咀嚼引用」と呼びたい。

² 地の文も主文も、主体の組み合わせは、aタイプと同じ、「伝達者の思考、伝達者の発話」であるが、受信者(読者)に向けられて発信されている。aタイプはそれだけでは誰に向けても発信されていない。

³ 北原の思考がそのままなぞられて表出されるcタイプは、見方を換えると、発話のみ(2)のレベルの北原の発話が(1)のレベルの記者の発話に置き換えられていて、そのため(2)と(1)のレベルが融合した様相を呈する。

5. 小説テキストにおける3つの引用の効果 (作中人物の内面との距離の操作)

お登世が答えを見つけられずにいると察しているのかどうか、お俊は言葉をつづけた。

「そうですね、きっと。わたしは多分、いつかこういうことになるって、草双子の筋書でも書くような気持ちで考えていたんです。捕まえらるる覚悟をしてみたり、主人や三河町の父に迷惑をかける前に死ぬつもりになったりして、ほんとうにそうになったらどうしようとおびえながら、どこかで面白がっていたんです」

だって——と、呟くようにお俊は言った。

「小間物屋さんに入って簪や櫛を買うのも、それが欲しかったからじゃない。もう一つを盗むのが、背筋がぞくぞくするほど楽しかったのですもの」

これが気に入ったと、一本の簪を手代に渡し、もう一本を手の中に隠して背を向ける一瞬。見破られるかもしれない不安を感じながら背を向けて、簪を懐へ押し込むあの時のあの気持の昂りは、ほかで味わったことがない。

実父は本道の町医者で、三河町のもとは皆、一度は病を癒してもらっていると評判だった。無料で薬を飲ませてもらったというものも少なくなく、子供の頃のお俊は、玩具屋へ行けば主人が一つか二つのおまけをくれ、菓子屋へ行けば、代金はいらないと女房が手を振ってみせたものだった。縁談は、その頃から降るようであった。父親が評判のよい医師で、当人は細緻がよく、気立てもわるくないというのであれば当然だろう。

嫁ぎ先に住吉屋を選んだのは父親だった。お俊は父親の言うがままに嫁いできたのだが、不治と診断された病を父親に癒してもらったことのある舅は、舞いおりてきた天女のようにお俊を大事にしてくれた。その上、祝言まで顔を合わせることもなかった倅、お俊の亭主となった治兵衛も、真面目で度量の大きい男だった。つきあいで吉原へ行っても、遊女や芸者を遊ばせて帰ってきてしまうというし、役者に披露目の口上を言わせた白粉で大当りをとるなど、商売の腕も確かだった。

治兵衛との間には男の子二人と女の子一人が生まれ、上の男の子はもう十五、治兵衛の叔父の家で商売を覚えさせているが、いい商人になりそうだ叔父も言っている。十三の娘には将来の亭主がもうきまつたし、手許に置いている末の子にも、養子にくれという話が幾つもある。

「羨ましいとお思いになる？」

(『蜩 慶次郎縁側日記』「逢魔ヶ時」)

かぎかっこで指示されるお俊の発話 (dタイプ) → 語り手の発話でお俊の発話がなぞられる cタイプ (下線部) → 「実父」や「お俊」が出てくるあたりから aタイプ (お俊の発話内容が語り手に咀嚼されて語り手の発話で表出) → 最後にまた、お俊の発話の dタイプにボタンタッチ (すべて元はお俊の発話、読者とお俊の内面の距離が3タイプの引用テキストにより操作誘導)

6. 結論と課題

- 1) 「思考と発話の原理」から導出される3つの引用 (2つの間接引用) の受容上の差を検証。ただし、受容上の差の確認は厳密には3つの引用の十分条件ではない。他側面での裏付けが今後の課題。
- 2) 主観表現以外の aタイプと cタイプの同定の決め手の抽出は今後の課題。
- 3) 3つの引用による、読者と作中人物の内面との間の距離の多様な操作の例の収集も課題としたい。

主要参考文献

- 鎌田修 (2000) 『日本語の引用』、ひつじ書房
- 廣瀬幸生 (1989) 「言語表現のレベルと話法」『日本語学』7巻9号
- 藤田保幸 (2000) 「文法論としての日本語引用表現の研究のために—再び鎌田修の所論について—」『滋賀大学教育学部紀要人文科学・社会科学』第50号
- 藤田保幸 (2001) 「引用論から見た「伝達モード」の位置づけ」『前田富祺先生退官記念論集日本語日本文学の研究』、前田富祺退官記念論集刊行会
- 藤田保幸 (2002) 『国語引用構文の研究』、和泉書院
- Leech Geoffrey N. and Short Michael H. (1981) *Style in Fiction*. London: Longman House. (本論では日本語訳による: リーチ、ジェフリー、N. / ショート、マイケル、H. (2003) 『小説の文体』、笠井夫監修、研究社)

「堀田善衛が辿ったフォスターの『インドへの道』」

大阪大学大学院言語社会研究科博士後期課程 2 年

アヌシュリー

本発表の目的は堀田善衛作『インドで考えたこと』を中心に持ち上げ、作家のインドの印象、そしてその印象を形作る根拠となった E.M.フォスター作『インドへの道』との対比を行うことである。さらにフォスターを参照しつつ、堀田の考えとその価値観を明らかにすることである。

堀田善衛と『インドで考えたこと』: 堀田善衛 (1918 - 1998) は 1956 年にニュー・デリーで開催されたアジア作家会議に参加するためにインドを訪問した。会議の書記局員として赴くことになった堀田はおおよそ三ヶ月のインド滞在中に様々な人と出会い、インドを旅行しながら考えたことを帰国してまとめ、1957 年に岩波書店から『インドで考えたこと』として出版した。

1950 年代という時代: 50 年代という時代、インドは世界政治の舞台においてめざましい活躍をしていた時期であった。ネルーは非同盟の指導者として世界に華々しく躍り出た。非同盟の真の目的は、ソビエトやアメリカに対抗する第三の勢力を組織することではなく、世界の国々を二つの超大国の勢力下に置く事なしに平和に導こうというものであった。その結果、インドは第三世界のリーダーとして注目を浴びるようになった。国内政策から考えても 50 年代は非常に重要な時期であった。独立してから 10 年ほど、未だインドの人口の多数は貧しく、仕事も教育も充分に行き渡っているとはいえない状況にあった。そのためインドの経済を向上させる大規模な計画として第一次、第二次 5 ヶ年計画がネルーの主導の元に行われた。

日本も第二次世界大戦が終わってまだ 10 年も経っていない時期であった。敗戦後アメリカの占領下にあった日本は、51 年に締結したサンフランシスコ講和条約によって、その主権を回復し高度成長の道を歩みはじめた。社会的、経済的なさまざまな面で変化が生じていた。工業化、都市化が進み、大量生産、大量消費の時期であった。第三世界の盟主インドの指導者としてネルーは敗戦後の混乱期にあった日本人にとって平和主義を掲げる、非常に理想的な政治家として受けとめられていた時期であった。このことはそれまで西欧に関心を示していた日本のインドに対する関心を高める事となった。1952 年両国は正式に国交を結んだ後、インドと日本は活発な外交活動を繰り広げる。

インドへのアプローチ: 渡印前に堀田のインドに関する知識は非常に限られたものである。つまり、仏教発祥の地、大英帝国の領土、そして聖雄ガンジーやネルーの国と言った、文献で得られた知識によるものや一般に認識されているような広い、暑い、貧しい国といった漠然としたものに限定されていた (堀田 1982: 154)。堀田のインドを理解するアプローチはこのようなイメージにも踏まえている。一方、堀田は世界を西欧とアジアの二元論で捉え、インドがアジアの一部であることに対して何の疑問を抱いていないように見える。その中で堀田は同じアジアの国としての日本との対比を試みる。例えば、日本の近代化への批判とインドの近代化の過程に関する記述が見られる。そして、西欧人から見たインドと日本人から見たインドのイメージの相違についても考える。このように、堀田にとってインドへのアプローチとしてさまざまな方法が存在していた。冷戦に覆われていた世界の政治や経済的情勢、日米関係や日本のアジアとの関係などが堀田のインドへのアプローチを形成する重用な要素となっていた。このような様々なアプローチの中の一つがイギリスの作家 E.M.フォスター

(1879-1970)の傑作として名高い『インドへの道』であった。1950年代まで、日本の知識人には南アジアを直接知るすがほとんどなく、西欧を通してしか南アジアを理解する方法はなかった。そのためアジアの大国インドを見る時、堀田は自分の持っていた西欧の教養を元に見るしかなかった。豊かな西欧的な教養を持つ堀田が文明国家としてのインドにアプローチする時、『インドへの道』がガイドブックとなったのもそれが理由である。従って、彼はフォスターの描いたさまざまな状況や場面を追体験しようとする。

『インドへの道』との対比：フォスターがインドを訪れたのは、インドはまだ英国の植民地であった。彼は1912年10月から翌年の4月、そして1921年に3月から11月までインドに滞在した。『インドへの道』は1924年に出版された。堀田とフォスターの作品にはインドのイメージに多くの共通点が見出せる。その影響が特に明確に見られるのはインドの文明、人、そして洞窟に関する描写や体験である。

文明：フォスターはインドの文明を「文明という勝ち誇った機械が急に故障を起こして、石でつくった自動車のように動かなくなってしまうことがある」（瀬尾 1985：186）と表現するが、堀田もその影響からか、インドのそういうところしか見ようとしなない。女性の水汲みの仕方や羊を追って歩く牧童や農村など何千年も前からまったく変わることのない風景としてとらえ、インドの先進的な部分に関する記述が無視されている事からも、フォスターの影響の深さを伺い知る事ができる。1950年代のインドには遅れているところはいくらかあったことは否定できないが、それをフォスターとほぼ同じ言葉で表現するところにフォスターの影響が明らかである。

当時の日本と比べるとインドは発展のスピードが遅いと考えることはうなずける。しかし、非同盟という政策を世界に広げた国、国際的なレベルで開催されたアジア作家会議を開いた国が発展と縁がないかのような発言は理解に苦しむ。1920年代にはすでに独立運動が盛んになっていたにも関わらず、フォスターがそのようなところを見ようとしなかった視点はすでに批判されている（Trivedi 1995：165-66）。従って、フォスターと堀田の作品の間には33年間の長い時間があっても、堀田にとってインドのイメージは停滞した文化の国のままである。正木恒夫は『闇の奥』の遠近法」という論文の中でこのような現象をまさに「時間的遡行」（正木 1995：216）と名づけている。堀田がフォスターの影響を受けてインドの発展している部分を見ずに、文明が停滞していると認める時「時間的遡行」と同じことが起こっているのではないか。

人：また『インドへの道』においてインド人のさまざまな人間関係が描かれている。イスラム教徒の間にみられる対人関係が描かれている箇所やヒンドゥー教徒とイスラム教徒の関係も取り上げられている。フォスターは多くの箇所でイスラム教とヒンドゥー教の対立や互いの習慣への無関心さを指摘しており、堀田の記述にもそれに倣ったと思われる記述がみられる。堀田も自らの宗教を守る人々特有の表情の陰しさを伝える（堀田 1982：181）。さらに、初めてのインドだったにも関わらず、堀田はインド人の宗教観を意識し、まるで『インドへの道』に書かれていることを確認するためにインド人にインタビューしたり、宗教に関して質問をする。フォスターがインドを訪れたのはインドがイギリスの支配下にあつたころであり、堀田が訪れた時はインドがすでに独立し、世俗国家としての憲法も持っている。しかし憲法上も宗教の差別をなくしたインドの理念に関する考察は見られない。

このように『インドで考えたこと』のあらゆるところでフォスターの影響が見られ、堀田はフォスターの描いたさまざまな状況や場面を追体験しようとする。そのなかでも一番重要だと思われるのが洞窟の持つ寓意である。まるで『インドへの道』を髣髴させるかのようなインドのある現実の「洞窟」を訪れる時堀田はフォスターと違う体験をする。

洞窟：『インドへの道』においてインドを旅するアデラとムア夫人という二人のイギリス人女性が登場する。インド人の知人の案内で町の近くにあるいくつかの洞窟を訪れるふたりはそれぞれ精神や思想に異常を来たしてしまうほどの異常な体験をするが、同行したインド人には何も異変がなかった。フォスターは事件の真相を直接に語らない。ふたりの体験はそれぞれ違うが、不思議にこだまが聞こえた事だけは共通していた。フォスターの描写において夫人もアデラもこだまを説明するのに非常に戸惑っている。アデラは耳に響くこだまに悩まされ続け、同行したインド人に乱暴されたと裁判で訴えるが、法廷の中で手動式扇風機の紐をひっぱる人間の惨めさと無意識さを見て、自分の狭い考えに目覚め、こだまは聞こえなくなった。他方、異常な状態に陥ったムア夫人は帰国の船中で死んだ。従って、こだまは彼女たちの文化、つまり形のあるイギリスの文化と、彼女らが形を見出す事の出来ないインドの文化と衝突した時の音であると指摘しているのではないだろうか。

『インドで考えたこと』においても堀田は洞窟を訪れているが、『インドへの道』で登場した洞窟は架空のものだったため、彼はエレファンタ島、アジャンタとエローラの洞窟に行く。そして、エローラの洞窟の中で叩いた石柱が不思議なほどこだまを響かせたという記述がみられる。堀田とフォスターのこだまに関する描写が極めてよく似ている。こだまについてフォスターの使用する「単調な不協和音、にぶい音」(瀬尾 1985 : 129)という言葉を意識してか、堀田は説明のない、整理しきれない体験と述べている(堀田 1982 : 201)。フォスターはこだまをバウム Boum として表現するが、堀田が「こだま」という単語を使用せずにあえて「ゴーボア...ルルル.....ン」という音で表記する。フォスターはこだまを説明するために「動物」という単語を使用している(瀬尾 1985 : 129)。堀田の記述にも動物が見られる(堀田 1982 : 201)。さらにフォスターの「反響はすべて「バウム」である」は、堀田の場合は「整理し区別して記憶することも出来ない」に入れ替わっている。その上、洞窟の入り口のところにフォスターの文章には「鳶」(瀬尾 : 128-29)が出てくるが、『インドで考えたこと』には「蝙蝠、鷹や鷲」(堀田 1982 : 196)などが登場する。

洞窟とこだまを始め、文明や人の描写に関して二人の体験と言葉はいかにも似ている。堀田は『インドへの道』をたどって、フォスターが見ていることをみて、彼の歩んだ道を歩いていることである。これは『インドへの道』の英語の題目を考えるとよく理解できる。『インドへの道』の英語の題目は *A Passage to India* である。その意味を考えると「A」という冠詞は人によってインドを見る様々な道があって、『インドへの道』は一つのフォスターなりの道であろう。しかし *A Passage to India* という小説は、堀田にとっては唯一のインドへの道、つまり *The Passage to India* であったのではないか。

アイデンティティーの複雑さ：アデラとムア夫人はインドの形のない文化と衝突したのだと理解できる。Edward Said は *Orientalism* (1979) においてオリエンタリズムをアジアが存在するから西欧に存在意義があると説明する (p. 5)。同様にアデラとムア夫人が自分の形のある文化を理解できたのは、インドのいわゆる形のない文化と衝突していたからではないか。正木恒夫はこの事実を、「インドの他者性と向き合った主体の動揺と溶解」(正木 1999 : 101, 103) と説明する。堀田の場合もこだまが聞こえたのは異文化のインド、そして他者性を持ったインドと接してから、主体(堀田)の動揺と溶解があったのではないか。しかし、堀田にとってこだまは「凝っと聞き入り、聞き惚れていた」(堀

田 1982:198) ののである。堀田の反応がアデラほど強くなかったのは彼の中にアジア的な部分が存在するからである。つまり、彼はイギリス人ほど異変を感じることもなければ、インド人のようにまるで何も感じない訳でもない。

さらに、正木恒夫は同論文において「堀田とアデラの体験はアイデンティティーの危機という点で同質のものである。」(正木 1999:101) と述べる。アデラの場合は自分のきちんとした西欧文化のアイデンティティーを持っているためインドという他者とぶつかるとアイデンティティーの危機を感じる。しかし堀田は自分の中に西欧的なものを自覚しながら、インドに行くことでアジア的なものにも目覚める。ここにあるのは、アイデンティティーの危機ではなく、アイデンティティーの混合、複雑さの自覚ではないだろうか。アジア的なものを自覚した堀田にとって、他者としてのインドの他者が揺らいだ。そこで、異なる文明の衝突音を聞いたふたりのイギリス人女性とふたりを案内しながらも全くその音を聞く事がなかったインド人のちょうど中間に堀田を位置付ける事が出来るかもしれない。洞窟においてイギリス人は自分にはないものを見つけてパニックになる、一方堀田は自分に通じるものを見つけてパニックになるといえる。

結論：堀田のさまざまなアプローチの中に文明国家としてのインドを見るアプローチもある。そのため彼は『インドへの道』を頼りにする。フォスターの西欧的な視点から書かれた『インドへの道』が、堀田にとってインドへ通ずる道しるべとなるが、現実には目の前で繰り広げられる世界に対する彼の関心をかえって狭めてしまったことは否定できない。最後に洞窟でフォスターと違う体験をすることで、堀田は自分の日本人としてのアイデンティティーの複雑さとあいまいさに目覚めた。

その意味では、出版された当時、思想旅行記や文明批評の書として認識されていた『インドで考えたこと』は、高度成長期の入り口に差し掛かろうとしていた日本の知識人に見られる西欧的な価値観の根強さを明らかにし、同時にインドを含めたアジアに対する日本人の意識を問う一冊として今もきわめて重要な意味を持つ作品である。

参考文献

- ・ 瀬尾裕、1985、『インドへの道』(日本語訳)、筑摩書房。
- ・ 堀田善衛、1982、『インドで考えたこと』、岩波新書。
- ・ 正木恒夫、1995、『植民地幻想—イギリス文学と非ヨーロッパ』、みすず書房。
- ・ 同上、1999、「イギリス的主体とインド的他者『ジェイン・エア』から『インドへの道』へ」、木下卓、笹田直人、外岡尚美(編)『多文化主義で読む英米文学：あたらしいイズムによる文学の理解』、ミネルヴァ書房。
- ・ Edward W. Said, 1979, *Orientalism*, Vintage Books, New York.
- ・ Forster E.M., 1978, *A Passage to India*, Abinger E. Edition, Butler & Tanner Ltd., London.
- ・ Trivedi Harish, 1995, *Colonial Transactions: English Literature and India*, Manchester University Press, Manchester and New York.

ヘミングウェイ文学における暴力とライティング
—「ホームライク」な場所を巡っての議論を中心に—

大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程 3年

久保 公人

場所：言語文化研究科棟 3F 講義室 時間：16:10～16:40

発表要旨

暴力的記憶を言語でとらえることによってその再現前を目指す作家ヘミングウェイのライティングに暴力浄化という儀式的な役割を認め、その書き祓われるべき対象である暴力の多様性と変容を追いながらヘミングウェイ文学を論じるのが博士論文の目的である。ヘミングウェイが闘牛に見出したものをその著書『午後の死』(*Death in the Afternoon* 1932)に探ると、そこにはジラールが人類学的見地から説く、悪しき暴力を犠牲者に体現させて聖なるものへと転換させる供儀のメカニズムと同様のものが見られる。しかも、彼にとって文学作品を書くこととは闘牛士の身振りを紙上で行うことであった。それは暴力的記憶を言語でもって体現し、良き作品へと転換させる儀式だといってもよい。

ヘミングウェイの文学に溢れかえる暴力は理不尽であり、対象を選ばず、はたまた伝染性があり、これまたジラール的な暴力の様相を呈している。死はもとより、怪我、病、出産等々の多様な形をとって暴力は登場し、作中人物らはそれらの目撃者または受難者となる。彼らの中にはニック・アダムズのように書き手として己の抱える暴力的記憶を書き祓う必要に迫られる者もあり、しかもそのトラウマ的記憶が作中人物のものなのか作者自身のものなのか、その境界が不明瞭となる場合もしばしばである。さらに、近年注目されるヘミングウェイの両性具有性が惹起する内なる性の境界侵犯という暴力は、暴力浄化の儀式に必要なイニシエーション的マスキュリニティなるものの存在を措定させる。このマスキュリニティ獲得の問題は、作家の能力を脅かす暴力、ひいては言語という道具そのものの内包する暴力といった、書くという儀式そのものを不能にする暴力の描かれ方とも深く関わってくる。

こうした博士論文の概観を紹介しながら、暴力への対峙とマスキュリニティの獲得のプロセスをめぐっての議論に的を絞り、とりわけ『武器よさらば』(*A Farewell to Arms* 1929)においてそのプロセスが退行的に描かれる様をお話したい。

引用文

1. I found the greatest difficulty...was to put down what really happened in action; what the actual things were which produced the emotion that you experienced. (DA 2)
2. If he wrote it he could get rid of it. He had gotten rid of many things by writing them. (SS 491)
3. Work could cure almost everything, I believed then, and I believe now. (MF 21)
4. "I do not believe it," Passini said still respectfully. "What is defeat? You go home."
"They come after you. They take your home. They take your sisters." (FA 50)
5. They threw you in and told you the rules and the first time they caught you off base they killed you gratuitously like Aymo. Or gave you the syphilis like Rinaldi. But they killed you in the end. (FA 327)
6. Fear gone like an operation. Something else grew in its place. Main thing a man had. Made him into a man. Women knew it too. No bloody fear. (SS 33)
7. ...she would drop her head and we would both be inside of it, and it was feeling of inside a tent or behind a falls. (FA 114)
8. "I'm just gone all to pieces." (FA 322)

-MEMO-

参考文献

- Baker, Carlos. *Ernest Hemingway: A Life Story*. New York: Scribner, 1969
- , *Hemingway: The Writer as Artist*. New Jersey: Princeton UP, 1980
- Benson, Jackson J. *The Short Stories of Ernest Hemingway: Critical Essays*. Durham: Duke UP, 1975
- , *New Critical Approaches to the Short Stories of Ernest Hemingway*. Durham and London: Duke UP, 1990
- Bloom, Harold. *Modern Critical Interpretations: Ernest Hemingway's A Farewell to Arms*. Philadelphia: Chelsea House Publishers, 1987
- Comley, Nancy R. & Scholes, Robert. *Hemingway's Genders: Reading the Hemingway Text*. New Haven & London: Yale UP, 1994
- Eby, Carl P. *Hemingway's Fetishism: Psychoanalysis and the Mirror of Manhood*. New York: New York State UP, 1999
- Girard, Rene. *Violence and the Sacred*. 1977. Trans. Patrick Gregory. Baltimore: Johns Hopkins UP, 1979
- Hemingway, Ernest. *Death in the Afternoon*. 1932. New York: Scribner's, 2003
- , *A Farewell to Arms*. 1929. New York: Scribner, 2003
- , *The Garden of Eden*. 1986. New York: Scribner, 2003
- , *A Moveable Feast*. 1964. New York: Scribner, 2003
- , *The Short Stories*. New York: Scribner, 2003
- Lacan, Jacques. *The Seminar of Jacques Lacan Book XI: The Four Fundamental Concepts of Psychoanalysis*. 1981. New York and London: W. W. Norton & Company, 1998
- Lynn, S. Kenneth. *Hemingway*. 1987. New York: Billeantine, 1988
- Marvin, Garry. *Bullfight*. 1988 Urbana and Chicago: Illinois UP, 1994
- Meyers, Jeffrey. *Hemingway: A Biography*. New York: Da Capo, 1985
- Reynolds, Michael. *Hemingway: The Homecoming*. 1992. New York and London: W. w. Norton & Company, 1999
- , *Hemingway: the 1930s*. 1997. New York and London: W. W. Norton & Company, 1998
- , *Hemingway: The Paris Years*. 1989. New York and London: W. W. Norton & Company, 1999
- Spilka, Mark. *Hemingway's Quarrel with Androgyny*. Lincoln and London: Nebraska UP, 1990
- Thurston, Michael. "Genre, Gender, and Truth in *Death in the Afternoon*." *The Hemingway Review*, Spring 1998; 17, 2; Academic Research Library: 47-63.

都市の「細部」へ
—Vladimir Nabokov の“A Guide to Berlin”—

大阪大学大学院言語文化研究科博士前期課程 1 年

後藤 篤

I. はじめに：Nabokov 作品における「細部」の存在

Lectures on Literature (1980) 所収の “Good Readers and Good Writers” の冒頭、Vladimir Nabokov は「読書において、人は細部に目を向け、それを愛でなければならない」と述べている。この言葉は、Nabokov の文学講義における基本的な態度を示すものであるが、こうした作品の「細部」に対する執着は、作家の創作の姿勢に当てはまるものでもある。例えば、1951 年 9 月 6 日付 Elena Sikorski 宛の書簡は、この点に関して有効な視座を提供してくれる。この書簡の中の蝶の採集に関するある一文に対して付けられた注釈において、書簡集の編者の一人である Nabokov の息子 Dmitri は、それがかつて Nabokov が ‘Sirin’ のペンネームを用いて作品の執筆を行っていた当時の雰囲気伝えてしていると述べている。この指摘から、Nabokov の「細部」に対する執着は、創作の初期の段階から存在していたと言える。書簡に対する Dmitri の指摘を受けたとき、「細部」への執着という観点から Nabokov の作品を考える上で、作家のロシア語時代、特に習作も含めた初期の作品は注目に値すると思われる。

Nabokov の作家としてのキャリアは、1921 年に彼の父親である V. D. Nabokov が当時編集長を務めていたベルリンの亡命者向け日刊新聞 *Rul'* に三篇の詩と短篇 “Nezhit” が掲載されたことから始まった。幼い頃から詩作を続けてきた Nabokov は、この時期にその創作の中心を詩から散文へと移し、処女小説 *Mashen'ka* (1926) の執筆によって、小説家としての本格的なデビューを果たすことになる。Brian Boyd は、Nabokov の若い頃の詩にはぼやかした描写を含むものが少なくないということを指摘し、1923 年頃までには Nabokov が「細部」の描写を用いて読者に明確なイメージを伝える手段を得ていたと述べている。そして、Boyd が「Nabokov の芸術に突然の進展が現れた年」と呼ぶ 1925 年の末に書かれた短篇“A Guide to Berlin”では、Nabokov の「細部」に対する処理は「すでに達人の域に達していた」。

“A Guide to Berlin”の執筆は、1925 年の 12 月頃、*Mashen'ka* の脱稿直後のことである。この短篇は 12 月 24 日付の *Rul'* 紙において、“Putevoditel' po Berlinu”として発表され、その後 1930 年にベルリンの Slovo 社から出版された短編集 *Vozvraschchenie Chorba* に収録された。後年、作家の代表作である *Lolita* (1955) のヒットから英語圏の読者の間でロシア語時代の作品への関心が高まり、一連のロシア語で書かれた長編小説とともに、この短編集も 1976 年に Nabokov 自身の手によって英語へと翻訳されることとなる。この短編集の英語版 *The Return of Chorb* では、それぞれの作品に対して作者自身が短い解説を加えており、そこではこの短篇が「見かけはシンプルであるが、私の最も手の込んだ (the most trickiest) 作品のうちの一つである」と述べられている。本発表では、Nabokov が抱く「細部」への執着を作品解釈の糸口として、“A Guide to Berlin”に仕掛けられた「トリック」の解明を目指す。その際、作品の中でベルリンという都市がどのように描かれているのか、そしてそこではどのような手法が用いられているかということに注目し、作家の創作史における作品の新たな位置付けを試みる。

II. 「未来回想」の手法

“A Guide to Berlin”は、五つのスケッチ風の断章から構成される小説である。これらの断章の前に付けられた序文風の文章の中で、ベルリンに住む亡命ロシア人である語り手は、自分が友人と一緒にあるパブに入ろうとしていること、そしてこれから「下水管や路面電車、その他の重要な物事」について友人に話し始めようとしているということを語る。小説の物語の中心は、語り手が友人に語るある一日のベルリンの様子、すなわち語り手によるベルリンの「案内」にある。序文の中で述べられているように、語り手の「案内」は、道路に積まれた下水管を描いた“The Pipes”に始まり、彼が乗った路面電車を描いた“The Streetcar”へと続く。三番目の断章である“Work”では、路面電車から見た人々の労働の様子が、四番目の“Eden”では語り手が訪れたベルリン動物園のことが語られる。そして最後の“The Pub”では、語り手が「案内」を終えてからのパブでの友人との会話が描かれる。この小説には、物語の中に二つの時間が存在している。すなわち、語り手と友人が話をしているパブにおける現在と、語り手の「案内」の中で描かれる過去である。前者が小説の外枠であり、その中で語り手の「案内」が展開されていく。そして、この二つの時間は“The Pub”において重なることになる。

語り手の「案内」は、いわゆる旅行ガイド的なものとは異なり、その関心は普段は目に付かないような日常の「細部」へと向けられている。“The Pub”において、語り手の話を聞き終えた友人は、その「案内」を「ひどくお粗末なガイド」とし、誰も路面電車やベルリン水族館などに興味を持たないと述べる。パブにいる店主の子どもについて思いをめぐらせる語り手に対して、そのことに気がついていない友人は、「君が何を見ているのか理解できない」と言う。小説の最後は、そうした友人の反応に向けられた、「どのようにして僕は、誰かの未来の回想を覗き見ていたなんて彼に説明すればいいのだろうか？」という語り手の内面の吐露で終わっている。

ここでの語り手の言葉にある「誰かの未来の回想」を「覗き見」という行為は、“A Guide to Berlin”の中心的な主題であり、またそれは語り手の「案内」が持つ重要な特徴の一つでもある。“The Streetcar”において、語り手は現在のベルリンに存在する路面電車に乗りながら、過去において馬車鉄道が消滅したように将来それがなくなってしまうこと、そして未来（21世紀か22世紀）において、ベルリンの過去を描こうとする一人の作家が、語り手が現在目にしている路面電車を博物館で見るであろうということを想像する。そうした語り手の想像の中の「未来」の時間においては、「車掌の鞆や窓に貼られた広告」といった「取るに足らない物」も、「価値があり、意味を持つようになる」。

このように、ベルリンの「現在」に存在する事物を想像上の「未来」から「過去」を回想するようにして描くこと、すなわち「未来回想」の手法を用いて、語り手は日常が持つ「細部」に新たな価値や意味を見出している。小説の中で、語り手はこうした「未来回想」を用いてベルリンを見ることに、「文学的創造の意義」が存在すると述べる。「ありふれた事物を未来の時間の優しげな鏡に映されたようにして描くこと」、これこそが語り手の「案内」が持つ主題であり、聞き手である友人が理解できない点でもある。

では、Nabokovがこの短篇において「未来回想」を用いた意図とは何か。以下、認識の方法としての「未来回想」の手法についての考察を行い、そこから導き出されるものを足掛かりとして、この手法が小説の構造にもたらす効果について見ていくことにする。

Ⅲ. 「異化」の方法としての「未来回想」

先行研究において、Maxim D. Shrayer は、この小説の語り手がベルリンに住む亡命ロシア人であるという点に注目し、語り手の「案内」に対する二つの解釈のコードを提示している。一つ目のコードは、「案内」とダンテの『神曲』との間テキスト性である。この解釈は、Nabokov が持つ「異界」のテーマを論じる上では効果的であると思われるが、そうした議論は本発表の目的からは逸脱する恐れがあるため、ここでは Shrayer が提示する二つ目のコード、すなわち Viktor Shklovski による「異化」の概念に目を向けることにする。Shklovski は、論文集 *O Teorii Prozy* (1929) 所収の“*Iskusstvo kak Priyom*”の中で、芸術の目的は見慣れた事物をまるで初めて見るようにして描くことにありとし、その手法を「異化」(*ostraneniye/defamiliarization*)の概念として提唱した。Shrayer は、“*A Guide to Berlin*”における語り手の「案内」が、亡命ロシア人の目を通したベルリンの「異化」であるとし、そこで用いられる「未来回想」の手法が、Nabokov による Shklovski の「異化」の概念の書き直しであると述べている。しかしながら、このように Nabokov の手法に Shklovski の影響を見る Shrayer の議論は、当時の Nabokov が書評の仕事をしており、Shklovski の著作も読んでいたかもしれないという推測から始まっており、説得力に欠けるものである。そこで、“*A Guide to Berlin*”における「未来回想」が Shklovski 的な「異化」と同様の効力を持つということを認めた上で、この手法を Nabokov 独自の思考法として見る立場に立ち、他のロシア語時代の作品にその根拠を求めることにしたい。

Nabokov のロシア語時代の作品を見たとき、そこにはベルリンに住む亡命ロシア人を描いたものが数多く存在しているということに気がつくだろう。それらの作品の中でも、“*A Guide to Berlin*”の語り手と同じく、ベルリンという都市が持つ「細部」に「文学的創造の意味」を見出す登場人物として思い出されるのが、ロシア語時代最後の長篇小説である *The Gift* (原題 *Dar*, 1952) の主人公 Fyodor である。ベルリンに住む亡命ロシア人であり、作家でもある Fyodor は、語学の家庭教師をして生計を立てている。小説の第三章において、彼が本当に教えたいことは語学などではなく、例えば彼が「多重思考」(*mnogoplannost' myshleniya/multi-level thinking*) と呼ぶ手法であるということが語られる。この思考法は、事物を認識する上で三つのレベルを持つものであり、その認識は第一に事物そのものに向けられ、第二にその事物の「細部」に、そして第三にそこから導かれるその事物とは全く関係を持たない別のイメージにといった形で移行していく。この「多重思考」における認識のレベルの移行を“*A Guide to Berlin*”の語り手による「未来回想」の中に見たとき、そこで描かれるベルリンという都市は認識の第一レベルに、そしてその都市が持つ「細部」とそこから語り手が想像する未来の光景は、それぞれ第二レベルと第三レベルに当てはまるだろう。その認識レベルの移行における類似性から見ても、*The Gift* に先立つ“*A Guide to Berlin*”の中で用いられる「未来回想」の手法は、「多重思考」の前身となっていると言えることができる。逆に言えば、「未来回想」における第三レベルから「未来」という時間の枠組みを外したものが、「多重思考」なのである。ともあれ、これら二つの認識の方法は、Nabokov が創作の初期の段階から持っていた「細部」に対する執着を、その作品の中で表現するために編み出した手法である。これらのことから、「多重思考」に先立つ「未来回想」は、Shrayer が指摘したような Shklovski の概念の修正というよりもむしろ、Nabokov 独自の「異化」の方法として見ることができるのである。

IV. おわりに：小説の時間構造に対する「未来回想」の効果

ここまで、「A Guide to Berlin」における「未来回想」について、Shrayer の議論を前提とした上で、この手法が持つ *The Gift* の主人公 Fyodor の「多重思考」との関連性を見た後に、それが Nabokov 独自の「異化」の方法であるということを確認してきた。最後に、「未来回想」の手法が小説構造に与える影響に目を向けたい。

先に見たように、この小説で描かれる「案内」は過去の出来事としての語り手の一日の再現であり、「The Pipes」から“Eden”までの三つの断章において、読者は「案内」の聞き手である友人と同じ立場に立ち、語り手の一日を時間軸に沿って読み進めることになる。だが、その中で「未来回想」の手法が用いられることによって、語り手の「案内」が持つ時間の直進性はずらされ、そこに想像上の未来の光景、すなわち別の時間に属する出来事が挿入されることとなる。そしてまた、「案内」が終えられた後の語り手と友人の会話を描いた“The Pub”の中でも「未来回想」が用いられていることで、この小説が持つ現在にも想像の未来の時間が入り込むのである。このように、「未来回想」を用いて小説の時間にずれを生じさせることこそ、Nabokov が作品に仕掛けた「トリック」であると言えるだろう。直線的に流れる時間を、「細部」に対する想像力、言い換えれば意識の力によってずらすこと。こうした時間に対する意識の優位性という主題は、Nabokov 作品に共通するものである。その意味において、短篇“A Guide to Berlin”は、Nabokov にとっての「方法としての芸術」を描いたマニフェスト的な作品であり、また後に「多重思考」のような形で複雑化される手法の萌芽を見せる重要な作品として、作家の創作史の中に位置付けることができるのである。

<Works Sited>

- Boyd, Brian. *Vladimir Nabokov: The Russian Years*. Princeton: Princeton University Press, 1990.
- Nabokov, Dmitri & Bruccoli, Matthew J. ed. *Vladimir Nabokov: Selected Letters 1940-1977*. Florida: Harcourt Brace Jovanovich, 1989.
- Nabokov, Vladimir. “A Guide to Berlin”. *Collected Stories*. London: Penguin Books, 2001. 155-160. “Putevoditel’ po Berlinu”. *Rasskazy · Vospominaniya*. Moscow: Sovremennik, 1991. 78-82.
- . *Dar*. Michigan: Ardis. 1975. *The Gift*. Scammell, Michael & Nabokov, Vladimir, trans. New York: Vintage International, 1991.
- . “Good Readers and Good Writers”. *Lectures on Literature*. New York: Harcourt Inc. 1982. 1-6.
- Shklovski, Viktor. “Iskusstvo kak Priyom”. *O Teoprii Prozy*. Moscow: Sovetskii Pisatel’, 1983. 9-25.
- Shrayer, Maxim D. *Nabokov: Themes and Variations*. Polishuk, Vera, trans. St. Petersburg: Academic project, 2000.
- 貝沢哉「暗闇と視覚イメージ：『ナボコフの身体』の主題と変奏』『引き裂かれた祝祭』論創社、2008年、275 - 303頁。